

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄									備考
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウカクジン ワセダ イョウガクエン 学校法人 早稲田医療学園									
フリガナ大学の名称	ニンゲンカクガクカクイブク 人間総合科学大学									
大学本部の位置	埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288番地									
大学の目的	人間総合科学大学は、教育基本法及び建学の精神に基づき、よりよく生きるための知恵（knowledge for well-being）の創出を追求するとともに、深く人間を理解し、自立と共生の心を培い、時代を切り拓く新しい展望と視座に立って、わが国の発展、国際社会に貢献しうる創造性豊かな活力あふれる人材の育成を目的とする。									
新設学部等の目的	「こころ」「からだ」「文化・社会」の側面から、人間を科学的、学際的に理解し、デジタル技術を活用して心身ともに健康で豊かに暮らせる社会の構築を支援できる人材の養成を目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	人間科学部心身健康科学科（通学課程）	4年	40人	—年次人	160人	学士（人間科学）	文学関係	令和8年4月第1年次	埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288番地	
計			40		160					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	保健医療学部看護学科 [定員減] (△30) (令和8年4月) リハビリテーション学科理学療法学専攻 [定員減] (△10) (令和8年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	人間科学部心身健康科学科（通学課程）	講義	演習	実験・実習	計	124単位				
		57科目	45科目	12科目	114科目					
学部等の名称	基幹教員						助手	基幹教員以外の員数（助手を除く）		
	教授	准教授	講師	助教	計					
新設	人間科学部心身健康科学科（通学課程）	人5 (5)	人1 (1)	人1 (1)	人1 (1)	人8 (8)	人2 (1)	人29 (29)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (8)			大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 8人	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）	5 (5)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (8)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	5 (5)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (8)					
分	計	5 (5)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (8)	2 (1)	— (—)		

人間科学部心身健康科学科【通信教育課程】		10 (10)	1 (1)	4 (4)	2 (2)	17 (17)	1 (1)	62 (62)	大学通信教育設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 13人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		9 (9)	0 (0)	4 (4)	2 (2)	15 (15)	/	/	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
小計（a～b）		10 (10)	0 (0)	4 (4)	2 (2)	16 (16)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計（a～d）		10 (10)	1 (1)	4 (4)	2 (2)	17 (17)			
計		38 (38)	11 (11)	19 (19)	10 (10)	78 (78)	9 (7)	— (—)	
合計		43 (43)	12 (12)	20 (20)	11 (11)	86 (86)	11 (8)	— (—)	
職 種		専 属			そ の 他			計	
事 務 職 員		14 (12)			18 (18)			32 (30)	
技 術 職 員		2 (1)			1 (1)			3 (2)	
図 書 館 職 員		2 (1)			4 (4)			6 (5)	
そ の 他 の 職 員		0 (0)			8 (8)			8 (8)	
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)			0 (0)	
計		18 (14)			31 (31)			49 (45)	
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用			計		
	校 舎 敷 地	26156.67㎡	574.68㎡	86.05㎡			26817.40㎡	早稲田医療技術専門学校 (必要面積：校舎等七棟 有するに必要な附属校 地・・・専修学校設置基 準第四十五条)と共用 (収容定員：40名) 借用地積：10,906㎡ 借用地積：20㎡	
	そ の 他	6742.23㎡	— ㎡	— ㎡			6742.23㎡		
	合 計	32898.90㎡	574.68㎡	86.05㎡			21962.90㎡		
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用			計			
		18338.82㎡ (18338.82㎡)	— ㎡ (— ㎡)	863.35㎡ (863.35㎡)			19202.17㎡ (19202.17㎡)	早稲田医療技術 専門学校(必要 面積260㎡)と共 用(収容定 員：40名)	
教室・教員研究室		教 室	68 室			教 員 研 究 室	84 室	大学全体	
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用分含む	
	人間科学部心身健康 科学科（通学課程）	44808 [4306] (44808 [4306])	269 [50] (269 [50])	7307 [2648] (7307 [2648])	25 [25] (25 [25])	13162 (13162)	142 (142)		
	計	44808 [4306] (44808 [4306])	269 [50] (269 [50])	7307 [2648] (7307 [2648])	25 [25] (25 [25])	13162 (13162)	142 (142)		
スポーツ施設等		スポーツ施設		講 堂		厚生補導施設			
		—㎡		523.89 ㎡		—㎡			
経 費 の 見 積 り 及 び 維持 方法 の 概 要	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	共同研究費等 等は大学全 体。図書購 入費には、 電子ジャー ナル、デー タベース、 その他の 経費（運 用コストを 含む。）を 含む
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		20,000千円	20,000千円	20,000千円	20,000千円	—千円	—千円	
	図書購入費	15,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	7,000千円	—千円	—千円	
	設備購入費	31,494千円	0千円	0千円	0千円	0千円	—千円	—千円	
学生1人当り 納付金		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		1,550千円	1,250千円	1,250千円	1,250千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、手数料収入、資産運用収入、受託研究費等外部資金等							

既設大学等の状況	大学等の名称	人間総合科学大学							所在地		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度			
		年	人	年次人	人		倍				
既設大学等の状況	人間総合科学大学										
	人間科学部						0.51			埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288番地	令和7年度入学定員減(△40)
	健康栄養学科	4	40	—	280	学士(健康栄養科学)	0.60	平成17年度			
	ヘルスフードサイエンス学科	4	15	—	195	学士(食品健康科学)	0.38	平成29年度			
	保健医療学部						0.82			埼玉県さいたま市岩槻区太田字新正寺曲輪354番3	
	看護学科	4	90	—	360	学士(看護学)	0.85	平成23年度			
	リハビリテーション学科 理学療法専攻	4	50	—	200	学士(理学療法)	0.77	平成23年度			
	リハビリテーション学科 義肢装具学専攻	4	30	—	120	学士(義肢装具学)	0.80	平成23年度			
	人間総合科学研究科						0.40			埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288番地	
	健康栄養科学専攻	2	5	—	10	修士(健康栄養科学)	0.40	平成21年度			
	【通信教育課程】										
	人間総合科学大学										
	人間科学部						0.39			埼玉県さいたま市岩槻区馬込1288番地	令和7年度入学定員減(△250)
	心身健康科学科	4	250	—	1750	学士(人間科学)	0.39	平成12年度			
	人間総合科学研究科						1.05			同上	
	心身健康科学専攻	3	9	—	27	博士(心身健康科学)	1.55	平成19年度			
	心身健康科学専攻	2	30	—	60	修士(心身健康科学)	0.83	平成16年度			
	附属施設の概要	該当なし									

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
(人間科学部心身健康科学科(通学課程))																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員
基本科目	育科学的表現力	基礎英語	1前		2			○							1	オムニバス
		論理的思考と表現法	1前		1			○							1	
		アカデミックリテラシー	1後	○	1			○			1					
		プレゼンテーション論	3前		1			○			2					
		サイエンティフィックライティング	3後		1				○						1	
	小計(5科目)		—	—	6	0	0	—	—	3					3	
	共創力育成領域	実用英語	2前			1		○							1	オムニバス
		サイエンスコミュニケーション学	2前		1			○			3				1	
		科学英語	2後			1			○						1	
		コミュニケーション入門	2後		2				○				1			
デザイン思考とイノベーション基礎		2前	○	1				○		1				1		
マーケティング論		2後		1				○						1		
ビジュアルコミュニケーション論	3前		1					○	1							
小計(7科目)		—	—	6	2	0	—	—	4			1		5		
AI・データサイエンス・テクノロジー領域	コンピュータ入門	1前			2			○						1	オムニバス	
	データサイエンスのための情報科学入門	1前	○	2				○		1				1		
	AI・データ活用リテラシー	1後	○	1					○					1		
	AI・データ倫理と社会	2後	○	1				○		2	1					
	AI・データサイエンスと社会	3後	○	1				○			1					
	データサイエンスのための基礎数学Ⅰ(解析・幾何)	1後	○	2				○		1				1		
	統計学	1後	○	2					○			1				
	ウェルビーイングのための統計演習Ⅰ	2前		2					○			1		1		
	プログラミング入門	2前	○	2					○		1			1		
	データサイエンスのための基礎数学Ⅱ(情報数学)	2・3・4後			2				○		1			1		
	ウェルビーイングのための統計演習Ⅱ	2・3・4後			2					○				1		
	プログラミング応用	2・3・4後			2					○				1		
	AI活用入門	2後	○	2						○	1			1		
	システム思考とデータサイエンスー基礎	2後	○	2						○				1		
	ビッグデータ解析ー基礎	3前	○	2						○				1		
	システム思考とデータサイエンスー応用	3・4前			2					○				1		
ビッグデータ解析ー発展	3後	○	2						○				1			
ロボティクス基礎	3前		2						○				1			
先端テクノロジー概論	3前	○	2					○		2	1		1			
デジタル・フェノタイピング健康情報計測学	2前	○	1						○			1	2			
健康情報処理学	3前	○	2						○			1	2			
ストレス評価学	3前	○	2						○		1	1	2			
ストレスマネジメント演習	3後	○	1						○		1	1	1			
小計(23科目)		—	—	31	10	0	—	—	5	1	1	1	2	4		
コア科目	理人解間の統合的	ヒューマンⅠ	1前	○	2			○						5	3	オムニバス・共同(一部)
		ヒューマンⅡ	1後	○	2			○			3	1	1	1	3	オムニバス・共同(一部)
		心身健康科学Ⅰ	1前	○	2			○			1	1		1	2	オムニバス・共同(一部)
		心身健康科学Ⅱ	1後	○	2			○			4		1		2	オムニバス・共同(一部)
		小計(4科目)		—	—	8	0	0	—	—	5	1	1	1		4

教育課程等の概要																		
(人間科学部心身健康科学科(通学課程))																		
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)		
ウェルビーイング実践	ウェルビーイング演習	1後	○	1					○			2			1	2	共同	
	ウェルビーイング地域支援演習Ⅰ	2通	○	2						○		1						
	ヘルスデータイムインターンシップ	2後	○	2						○		1				1	オムニバス・共同	
	ウェルビーイングツーリズム	2・3・4通			1					○		2				1	オムニバス・共同	
	ウェルビーイング地域支援演習Ⅱ	3後			2					○		1						
	こころとからだのウェルビーイングプロジェクト	3通	○	2						○		5	1	1	1		6	オムニバス・共同(一部)
	小計(6科目)	—	—	—	7	3	0			—		5	1	1	1	1	8	
ゼミ型探究実践演習	こころとからだのウェルビーイング探究Ⅰ	1前	○	1					○		5	1	1	1			共同	
	こころとからだのウェルビーイング探究Ⅱ	1後	○	1					○		5	1	1	1			共同	
	こころとからだのウェルビーイング探究Ⅲ	2前	○	1					○		5	1	1	1			共同	
	こころとからだのウェルビーイング探究Ⅳ	2後	○	1					○		5	1	1	1			共同	
	こころとからだのウェルビーイング探究Ⅴ	3前	○	1					○		5	1	1	1			共同	
	こころとからだのウェルビーイング探究Ⅵ	3後	○	1					○		5	1	1	1			共同	
	小計(6科目)	—	—	—	6	0	0			—		5	1	1	1			
分野別科目	こころとからだの関係	心理学概論	○	2					○					1				
	行動科学概論	1前	○	2					○		1							
	こころと行動の測り方	2前	○	2					○		1							
	人間関係論	2後		2					○				1					
	こころの科学と検査－基礎	2前	○	1						○			1	1	1		共同	
	こころの科学と検査－応用	2後			1					○			1	1	1		共同	
	こころの科学と実験－個人	3前			1					○			1	1	1		共同	
	こころの科学と実験－集団	3後			1					○			1	1	1		共同	
	カウンセリング入門	3前			2					○				1				
	感性評価論	3後			1					○		1						
	発達心理学	1・2・3・4後			2					○		1					メディア	
	社会心理学	1・2・3・4前			2					○						1	メディア	
	感情・行動パターンの心理学	1・2・3・4後			2					○						1	メディア	
	臨床心理学概論	1・2・3・4前			2					○				1			メディア	
	ストレス科学	2後	○	2						○		2		1			オムニバス・共同(一部)	
	心身関連の科学	3後	○	1						○		1					オムニバス	
小計(16科目)	—	—	—	13	13	0			—		3		1	1	2	4		
いのちと健康のしくみ	体育	1前			1					○							1	
	健康管理実習	1前			1					○							1	
	人体の構造と機能	1後			2				○								1	
	デジタル・フェノタイピング心身機能観察基礎演習	1後	○	1						○		2				1	共同	
	生命科学概論	2前	○	2					○		1							
	栄養学	2後			2				○		1							
	分子生物学	3前			1				○							1		
	脳科学論	2前			2				○							1		
	健康科学論	2前			2				○							1		
	ライフスタイルと健康科学	3後			2				○							1		
	公衆衛生学	3後			1				○							1	メディア	
	臨床医学概論	3後			2				○							1		
高齢者健康科学論	1・2・3・4後			2				○							1	メディア		

教 育 課 程 等 の 概 要																		
（人間科学部心身健康科学科（通学課程））																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 （ 助 手 を 除 く ）			
	女性健康科学論	1・2・3・4前			1			○			1						メディア	
	自律神経生理学	1・2・3・4後			1			○			1					1	オムニバス・メディア	
	免疫学	1・2・3・4前			2			○								1	メディア	
	予防栄養学	1・2・3・4後			1			○								1	メディア	
	小計（17科目）	—	—	9	17	0		—			2					10		
文化・ 社会と 人間	社会調査法－基礎	2前	○	2				○						1	1			
	社会調査法－応用	3・4前			1			○						1	1			
	社会調査実践Ⅰ	3前			2			○							1	1		
	社会調査実践Ⅱ	3後			2			○							1	1		
	人間環境論	1後	○	2				○			1							
	ウェルビーイングと社会システム	2後	○	2				○			1					1	オムニバス・共同(一部)	
	持続可能型社会論	3前	○	1				○			1	1					オムニバス	
	社会福祉論	3後			2			○									1	
	比較文化論	3後	○	2				○			1							
	文明の成り立ち	1・2・3・4後			2				○		1							メディア
	社会学概論	1・2・3・4後			1				○		1							メディア
	保健学	1・2・3・4前			2				○								1	メディア
	人間文化論	1・2・3・4後			2				○		1							メディア
	地球・生命史	1・2・3・4前			2				○								1	メディア
	高齢者福祉論	1・2・3・4後			2				○								1	メディア
食べものの学	1・2・3・4前			2				○								1	メディア	
いのちの文化人類学	2・3・4前			1				○		1							メディア	
	小計（17科目）	—	—	9	21	0		—			2	1			1	1	6	
未来と 人間	ウェルビーイング論	1後	○	1				○			1	1						オムニバス・共同(一部)
	ポジティブコンピューティングⅠ	2後	○	2				○			1	1					1	オムニバス
	ポジティブコンピューティングⅡ	3前	○	1				○			1	1				1	1	オムニバス
	生命倫理学	4前		2				○									1	
	ウェルビーイング実践Ⅰ	2・3・4前			1			○								1	2	オムニバス
	ウェルビーイング実践Ⅱ	2・3・4後			1			○								1	1	
	小計（6科目）	—	—	6	2	0		—			1	1			1		5	
演習合	人間総合科学の探究Ⅰ	4前	○	4				○			5	1	1	1				共同
	人間総合科学の探究Ⅱ	4後	○	4				○			5	1	1	1				共同
	小計（2科目）	—	—	8	0	0		—			5	1	1	1				
形 成 課 目	職業・キャリア形成Ⅰ	1前		1				○			1						1	オムニバス・共同(一部)
	コミュニケーション演習	1前		1				○			5	1	1	1				共同
	職業・キャリア形成Ⅱ	3前		1				○			1						1	オムニバス・共同(一部)
	小計（3科目）	—	—	3	0	0		—			5	1	1	1			1	
共 通 科 目	国際研修	1・2・3・4通			1					○	1							
	ボランティア活動	1・2・3・4通			1					○	1							
	小計（2科目）	—	—	0	2	0		—			1							
合計（114科目）				—	—	112	70	0		—	5	1	1	1	2	29		
学位又は称号		学士（人間科学）			学位又は学科の分野				文学関係									
卒業要件及び履修方法									授業期間等									
必修科目112単位、分野別科目の「体育」及び「健康管理実習」から1単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：46単位（年間））									1学年の学期区分			2学期						

教 育 課 程 等 の 概 要

（人間科学部心身健康科学科（通学課程））

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
							1学期の授業期間								15週
							1時限の授業の標準時間								90分

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基本科目	基礎英語		英語に触れる際に必要な基本的な文法や語彙、構文を理解することにより、英語でのコミュニケーション力の強化のために必要となる聴解力と読解力の強化を目的とする。英文によるフレーズに慣れることで、実践的な学修を行う。構文や基本的な表現パターンを理解し、基礎的な英語の使用に慣れることを目指す。本科目の学修により、英語を使用したコミュニケーションに親しみ、また、基本的な文法や語彙の習得を通じて、英語による理解と表現の幅を広げる。	
	論理的思考と表現法		論理的な思考能力を養うために、論理学の基本原則や推論の方法を学ぶ。また、自分の考えを論理的に説得力を持って伝えるためのスキルを磨く。学修を通じて、章の構成やプレゼンテーション技法、批判的思考の重要性とその具体的な方法論を学び、具体的な事例を通して、論理的思考の実践力を高める演習も行う。これにより、効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、複雑な問題を論理的に解決する問題解決能力を培う。	
	アカデミックリテラシー	○	大学での論文執筆やレポート執筆は、科学的な物の考え方に基づいて執筆を行うことが求められる。また、単に書籍に書いてある内容をそのまま引用として使用するのではなく、批判的にクリティカルに考えていく必要がある。このように、論文やレポート執筆には、決められた方法・ルールが存在し、それを学ぶことによって、科学的な手段で論文を執筆することができる。本講義では、科学とは、そして科学的に決められている論文執筆のルールを学ぶことで、科学的に論文を書くことだけではなく、科学的に学術文献を読むこと、および科学的に論文を読む技術を身につける。	
	プレゼンテーション論		人類が築いてきた高度な文明の基礎の1つに言語をはじめとする様々な情報伝達手段の発展があり、プレゼンテーションは、そうした情報伝達の1つの形態である。本科目は、今後学会発表をする学生のための入門講座としてだけでなく、職業人、社会人にとってのプレゼンテーション全般に役立つ基本的事項を学ぶ。具体的には、学会発表の心構えや基本事項、発表内容の精査、伝わりやすくて見やすいポスターやスライドの作成、発表本番での論理展開、質疑応答への対応について学び、レポート報告、学会発表に関するプレゼンテーションの基本事項を実践できるようにする。 (オムニバス方式/全8回) (1 鍵谷方子/4回) プレゼンテーションの重要性と役割を学ぶ。効果的なプレゼンテーションの構成要素と論理展開、を学び、プレゼンテーションの目的に応じたテーマ選定と内容精査を行う。ポスター発表のの基本構成とデザインのポイントも学ぶ。 (5 矢島孔明/4回) 効果的で見やすいスライド作成のポイント、視覚的要素の効果的な活用方法を実例とともに学ぶ。声のトーンやジェスチャーを活用した効果的な発表技術、発表の時間配分の重要性と効果的な練習方法を学ぶ。	オムニバス方式
	サイエンティフィックライティング		科学者、研究者、あるいは高度専門職業人として科学的な情報を明確かつ効果的に伝えるための記述力を学修する。論文やレポートを通じて目的と仮説、実験デザイン、結果およびその考察について、論理的で正確な文章を構築する。専門的な用語や形式に慣れ、正確な引用と参考文献の使い方を身につけることで、科学的コミュニケーション能力を向上させる。本科目の学修により、自身の研究成果を他者に伝える際に明快で専門的な文章を作成する能力を高めることを目指す。	
共創力育成領域	実用英語		健康科学領域やAI・データサイエンス領域で用いられる英語を中心に、科学的手法に特有な表現を学ぶ。実際に科学界で使用されている英語の表現を理解し、それを活用する基本的なスキルを身につける。特に、科学論文の読解に不可欠な専門用語や科学的な文章表現の理解を深めることで、論理的かつ明確な英語表現力を養う。本科目の学習を通じて、学生は自身の関心領域や研究に関する情報収集および的確に共有するための基礎的な英語技術の獲得、さらに専門分野でのコミュニケーション能力の向上を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	サイエンスコミュニケーション学		<p>「サイエンスコミュニケーション学」は、科学的情報の伝達と理解を促進するコミュニケーションスキルを学生に提供することを目的としている。この科目では、サイエンスコミュニケーションの基本理論、デジタルメディアを利用した情報の広がり方、効果的なビジュアルコミュニケーションの技術、そしてコミュニケーションの倫理に焦点を当て、実践的なワークショップやプロジェクトを通じて、科学情報を効果的に伝える方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 鍵谷方子/2回) デジタルコミュニケーションの基礎を学ぶとともに、科学的情報の取得、処理・分析や伝達に必要な、基本ツールを使ったコミュニケーションスキルを養う。</p> <p>(② 中山和久/2回) サイエンスコミュニケーションの基礎として、サイエンスコミュニケーションの概念、歴史を概説する。科学的知識の伝達方法、聴衆ごとのアプローチも学ぶ。</p> <p>(5 矢島孔明/2回) インターネットツールを利用したサイエンスコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>(⑩ 吉田浩子/2回) コミュニケーションの倫理と実際の課題について概説し、具体的な事例から実践的に考察する。</p>	オムニバス方式
	科学英語		<p>AI・データサイエンス領域で用いられる英語について、機器の名称や科学手法における特有な英語における表現を知り、実際に用いられている英語科学表現として活用するための基本的な学修を行う。科学論文を読解するうえで必要な専門用語や科学的文章表現を理解し、論理的かつ明確な表現力を養う。本科目の学修により、将来的なグローバルな研究活動を見据え、自身の研究を的確に共有する基礎的な英語技術の獲得および専門分野でのコミュニケーション能力を高めることを目指す。</p>	
	コミュニケーション入門		<p>本科目では、コミュニケーションの基本理論と対人コミュニケーションスキルに焦点を当てる。心理学の観点からコミュニケーションプロセスを理解し、日常生活や職場での効果的な対話技術を学ぶ。社会学、心理学、言語学など多様な研究分野の知見を盛り込み、コミュニケーションが現代社会でどのような役割を果たしているのかを、身近な例を用いて解説する。実生活で直面する様々なコミュニケーションの課題を理解し、それに対処するための複眼的な視点を身につける。</p>	
	デザイン思考とイノベーション基礎	○	<p>複雑な問題に対する創造的かつ革新的な解決策を導くための理論と実践を学ぶ。デザイン思考のプロセス（共感、問題定義、アイデア創出、プロトタイプ作成、テスト）を学び、多様な視点から問題を捉え、柔軟な発想を引き出す手法を身につける。講義とワークショップを通じて、試行錯誤を重ねながら実践的な解決策を探り、チームでの協働やフィードバックの活用方法を学ぶ。身近な課題から始め、社会やビジネスの場でも応用できる発想力を育むことを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(① 小柴満美子/6回) デザイン思考の特徴、他の思考法との違い、デザイン思考のプロセスとマインドセットについて解説する。</p> <p>(18 飯塚愛/1回) デザイン思考の第四プロセスであるプロトタイプ作成を解説する。</p> <p>(① 小柴満美子・18 飯塚愛/1回) (共同) これまでの授業を振り返り、心身健康科学を関連づけながら、デザイン思考の課題と展望について解説する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	マーケティング論		マーケティングの概念、戦略、戦術、およびプロセスを学修する。製品や情報の本質、状況に適した手法や考え方、感覚を理解していき、アンケート等を適切に利用していく実践的な作業における基本を学ぶ。そのうえで、ケーススタディを用いて、実際の例からマーケティングを利用できる力を形成する。本科目の学修により、市場の要求に対応するための戦略的な思考力を養い、製品やサービスの特性を理解し、消費者のニーズを捉える能力を向上させる。ケーススタディを通して実際のビジネス状況に対処する柔軟性を身につける。	
	ビジュアルコミュニケーション論		視覚的な情報を使った効果的なビジュアルコミュニケーションの基礎を学ぶ。写真、映像、イラスト、図形などを用いた表現手法を歴史的背景や社会・文化的役割とともに概観し、企業広告や社会的メッセージの実例を通じて、社会課題への応用を考究する。グラフィックデザインの基礎から、ロゴ、パッケージ、広告、ウェブデザイン、UI・UXまで、現代の多様なメディアに対応したデザインスキルを養う。講義と演習を通じ、社会や地域との良好な関係構築に寄与するクリエイティブなビジュアル表現力を養う。	
AI・データサイエンス・テクノロジー領域	コンピュータ入門		本科目では、コンピュータの基本的な知識と操作スキルを学ぶ。パソコンの基本操作、ハードウェアの構成要素、基本的なソフトウェアアプリケーションの使用方法に焦点を当てる。この科目を通じて、日常的なコンピュータ利用能力を養い、情報技術の基盤を固めることを目指す。	
	データサイエンスのための情報科学入門	○	データや情報を扱うための基礎的な知識と考え方を学ぶ。エクセルなどを使ったデータ整理や簡単なグラフ作成を通じ、データの整理法やアルゴリズムの基礎概念に触れることで、データサイエンスへの第一歩を築く。また、情報の取り扱いにおけるリテラシーの重要性を理解し、今後の学び（プログラミング、統計、AI活用など）に備える。身近な事例を使いながら、データ活用の基本的な技術と思考法を養う。	
	AI・データ活用リテラシー	○	この講義は、保健・医療・福祉・教育の分野で必要とされる情報リテラシーの基礎知識と技術を修得することを目的とする。具体的には、Microsoft Office (Word, Excel, PowerPoint) を使用し、データの収集・整理・発信に必要なスキルを学ぶ。また、Society 5.0、データ駆動型社会の中でAIやデータの利活用が生活と密接に結びついていることを理解し、データサイエンスの基本的な活用法を習得する。さらに、個人情報やデータ倫理、AI社会原則に関する留意事項も学び、データを適切に活用する力を養う。学修を通して、現代社会の変化に対応できる能力を身につけ、ウェルビーイング分野での実践力を高めることを目指す。	
	AI・データ倫理と社会	○	人工知能とデータ活用の進展に伴い、社会的な影響を理解し、倫理的な判断力を養うことが求められている。本科目では、AIとデータ活用におけるプライバシー保護、透明性、公平性・非差別、説明責任などの倫理的課題を学ぶ。さらに近年の国内外のAI倫理に関する声明やガイドライン（OECDのAI倫理原則、インターネットガバナンスフォーラム（IGF）、UNESCOのAI倫理勧告、Center for AI Safety (CAIS)による共同声明、日本のAI戦略など）などを取り上げ、その最新動向を理解する。講義とディスカッションを通じて、多角的な視点からAIと社会の関係を考察し、責任ある技術利用に向けた実践力を育成する。 (オムニバス方式/全8回) (2 川村春美/3回) 日本国内および海外のAI研究開発動向を紹介する。AIによる社会的バイアスによる誤認識事例や誤抽出例の紹介を通して、発生要因および防止策を議論する。AIによる自動運転の事故事例の紹介を通して、発生要因および防止策を議論する。 (① 小柴満美子/1回) 日本国内の企業での取り組み、海外の取り組み事例の紹介を通して、AIを利用する立場でのあり方を議論する。 (③ 増田和宏/4回) AIによる情報漏洩の事例紹介を通して、発生要因および防止策を議論する。 AIによるフェイク動画/ニュース、AIによるサイバー攻撃、AIによるブラックボックス化によるトラブル事例などの事例紹介を通して、発生要因および防止策を議論する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	AI・データサイエンスと社会	○	AIやデータサイエンスを社会で活用できる人材をめざし、AI技術の仕組みの基本や応用分野を理解し、ビッグデータ解析がビジネス、医療、公共政策、教育分野など社会でどのように活用されるかを学ぶ。具体的なケーススタディを通じて、AIとデータがもたらす新たな可能性とその課題について考察する。	
	データサイエンスのための基礎数学Ⅰ（解析・幾何）	○	データサイエンスに必要な基礎的な数学の理解を深める。解析学、線形代数、幾何学の基礎的な概念を学び、それらがデータの分析やモデリングにどのように活用されているかを理解する。具体的には、関数、微積分、ベクトルや行列、空間の概念を取り扱い、データ処理やアルゴリズムの数学的基盤を習得し、データサイエンスの実践に役立つスキルを身につける。	
	統計学	○	様々な分野で「データサイエンス」への注目が高まっている一方で、統計ソフトから出力される判定結果のみにとらわれ、その意味を十分に理解しないまま扱ってしまうことが散見される。その原因の一つとして、調査や実験から得られるデータの性質を正確に理解できていないことがあげられることから、本科目では調査や実験から得られるデータの性質を理解した上で、その統計解析や解釈ができるようになるための基礎を習得する。学修を通して、他者の論文等を正確に読むことができるようにし、さらには自身の研究での実際のデータ解析にも応用できる力を養う。	
	ウェルビーイングのための統計演習Ⅰ		基本的な統計学の理論や考え方を学ぶ。実験・調査等から得られたデータの種類の整理や整理方法を知る。Excelを用いて、データの整理や初歩的な分析を行う。また、データを科学的に分析・解釈することができるようになるために、量的分析と質的分析を学修する。本科目により、人間と社会にかかわる様々な学問領域で基本となる統計学の基本を学び、学際的・総合的知識を身につける基礎を養う。	
	プログラミング入門	○	本科目では、プログラミングの基本概念と操作を初歩から学び、コンピュータを使った課題解決につながる基礎力を養う。Pythonなど、シンプルな構文と幅広い応用性を持つプログラミング言語を使用し、基本構文、データ型、制御構造、関数、アルゴリズムの基本を学ぶ。小規模なグループプロジェクトを通じたPBL（課題解決型学習）を取り入れ、協働的な学びを通じて理解を深め、実践的なコーディングスキルと論理的思考力を育成する。	
	データサイエンスのための基礎数学Ⅱ（情報数学）		データサイエンスに必要な情報数学の基礎を学び、データの処理と解析における数理的な理解を深める。離散数学、確率論、統計学、アルゴリズムの基礎を通じて、自然科学や社会科学のデータ解析に活用される数学を体系的に学ぶ。さらに情報の圧縮や暗号化、データ構造の理解を通じて、データ活用求められる技術的基盤を構築し、実践的な応用力を養う。	
	ウェルビーイングのための統計演習Ⅱ		卒業研究や論文の精読に必要な、統計学の基礎と応用を学修する。特に、推測統計、統計的仮説検定、多変量解析に関する知識と技術を修得することを目標とする。また、データを科学的に分析・解釈することができるようになるために、量的分析と質的分析を学修する。Excelによるデータの統計解析に加え、不足する機能を補うために他の無料の統計解析ソフトウェア（HAD、R）も用いて、専門的知識を自身や社会・職業上の問題関心と有機的に関連付けて問題を解決する能力を身につける。	
	プログラミング応用		「プログラミング入門」で学んだ基礎的知識・スキルをもとに、より高度な、あるいは応用的なプログラミングスキルを修得する。データ分析や自動化ツールの開発など、実践的な課題に取り組みながら、応用的なプログラミング言語を使用し、より高度なコーディングスキルを養う。小規模なグループプロジェクトを通じたPBL（課題解決型学習）を取り入れ、協働作業を通じてプログラミングを社会的な文脈で活用する力と、実践的な問題解決力を高める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	AI活用入門	○	AIを活用できる人材として社会で活躍するための知識設計（ナレッジエンジニアリング）の基礎知識を修得する。AIの知識設計の基本概念とその活用方法を学ぶ。社会のルールや企業の規則から知識設計を行うAIモデルの実装を通じ、AIがどのようにデータを処理し、意思決定に役立てられるかを体験する。AIの倫理的側面やプライバシー保護の重要性についても学び、社会での適切なAI活用を考究する。ナレッジエンジニアリング演習を通して、AIの実践的な活用に向けた基礎的理解と応用力を養う。	
	システム思考とデータサイエンスー基礎	○	現代社会におけるウェルビーイングの実現には、身体的・心理的・社会的要素が相互に影響し合うシステムを理解する力が不可欠である。本科目では、システム思考の基本概念を学び、社会や健康分野における課題を構造的に捉える視点を養う。心身の健康、生活環境、人間関係などの要素がどのように相互作用し、全体のダイナミクスを形成するのかを考察する。 また、フィードバックループや創発現象といったシステムの特性について学び、身近な課題をもとにした演習を通じて、理論と実践を結びつける。	
	ビッグデータ解析ー基礎	○	ビッグデータ解析の基礎を学び、多次元にもわたるビッグデータ（身体的、心理的、社会的ビッグデータ）の収集、処理、分析に必要な技術と理論を習得することを目的とする。データベース管理、データクリーニング、機械学習の基礎について学び、ビッグデータが持つ特徴（大量性、多様性、速度、信憑性）を理解する。プログラミング言語を使用し、大規模データセットの処理や解析を実践的に学習する。さらに、ビッグデータの社会、ビジネス、科学分野などでの活用事例や倫理的な課題についても触れ、社会の問題解決に活用・実装できる基礎力を養う。	
	システム思考とデータサイエンスー応用		「システム思考とデータサイエンスー基礎」で学んだシステム思考の基礎的理解と実践力を発展させ、応用に取り組む。講義と演習を組み合わせたプロジェクト型の学びを通じ、ウェルビーイングに関わる多層的な要素の相互作用をモデル化したり、変化のパターンを分析する力を養う。	
	ビッグデータ解析ー発展	○	「ビッグデータ解析ー基礎」で習得した知識を発展させ、高度なデータ解析技術と実践的スキルを修得することを目的とする。具体的には、データマイニング、予測モデルの構築、テキスト解析などの技術を学び、実際にデータを解析する演習を行う。多次元（身体的、心理的、社会的）ビッグデータをリアルタイムで処理し、予測モデルの応用やデータの可視化手法にも取り組む。プロジェクト型演習を通じて、複雑な課題への対応力や現場で求められるデータ解析力および実装力を養う。	
	ロボティクス基礎		本科目はデータサイエンステクノロジー分野の一つとして、デジタル社会に必要な論理的思考に基づいて、ロボットに所望の動作を行わせるプログラムを作成するスキルを身につけることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（人間科学部心身健康科学科（通学課程））				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	先端テクノロジー概論	○	<p>BMI、ロボティクス、デジタルツイン、AR・VRといった最新技術の基礎を学び、それぞれの技術の相互活用についても考究する。BMIでは脳と機械の直接的なインターフェースを理解し、ロボティクスでは自動化や人工知能を駆使したロボット技術の基本を学習する。デジタルツインでは物理的システムの仮想モデルを作成する技術を習得し、AR・VRでは仮想環境と現実世界の融合を実践的に学ぶ。これらのテクノロジーの連携が社会や産業にどのような変革をもたらすかを探求し、未来の応用可能性を考察する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（2 川村春美／5回） デジタルツインの原理と構築方法を学び、産業への応用を考察する。 AR・VR技術の基本を学び、実践的な応用事例を体験する。デジタルツインとARを組み合わせたシステムの可能性を学ぶ。デジタルツインの構築と、AR・VRを使用した仮想環境シミュレーションを体験的に学ぶ。</p> <p>（① 小柴満美子・35 西田吉克／6回）（共同） 講義の目的と概要、最新テクノロジーの全体像を説明する。これらの先端技術が社会や産業に与える影響を多角的に考察する。 脳-機械インターフェースの基礎を学び、その原理と応用事例を考察する。 ロボット工学の基礎技術とAIによる制御の基本を学ぶ。BMIを用いたロボット制御の実例を学び、技術的課題を考察する。 BMIやロボティクス技術を使ったシンプルなシステムの構築と評価を行う。</p> <p>（③ 増田和宏／3回） 最新のAI技術動向やAIの応用事例を学ぶ。 実社会の課題に対するAIの適用例を分析し、プロジェクトを通じて解決策の提案を行う。</p> <p>（2 川村春美・① 小柴満美子・③ 増田和宏・35 西田吉克／1回）（共同） チームで行った技術統合プロジェクトの成果を発表する。授業全体を総括し、学んだ知識とスキルを振り返る。</p>	オムニバス方式・共同（一部）

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	デジタル・フェノタイピング健康情報計測学	○	<p>ヘルスデータをこころ・からだのデータとして計測するために必要な観察手段やツール、デバイスについて学ぶ。計測技術は進歩（近年開発が著しいバイオセンシング技術に応用したポータブル、ウェアラブルの計測デバイス、Web上の科学的なヘルスデータの検索ツール）しており、このような健康情報を収集、計測、観察するための手段・ツールの理解と使用方法に加え、集められた情報やデータの特徴について理解を深める。正確な解析を行うための前段階として求められる適切な情報、データの整理、保存方法についても統合的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 鍵谷方子/2回) ヘルスデータへのアクセス方法と留意点を解説する。循環機能計測について解説する。実際に計測を観察し体験的に学修する。</p> <p>(2 中山和久/1回) フィールドワークの方法について解説する。</p> <p>(5 矢島孔明/2回) バイオマーカーによるヘルスデータ収集方法について概説する。唾液を用いた生体情報・計測について解説する。</p> <p>(5 矢澤順根/1回) 質問紙調査によるデータアクセスに必要な知識とスキルを実践学修する。</p> <p>(6 小岩信義/1回) バイオセンシングの原理や仕組みについて解説する。実際に計測を観察し体験的に学修する。</p> <p>(11 吉田浩子/1回) 行動観察の方法について解説する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	健康情報処理学	○	<p>実社会のフィールドの中での活用目的に適合した健康情報として還元するために必要となる発展的なデータ解析スキルを修得する。具体的には、健康情報計測学で修得したバイオセンサーや質問紙、行動観察手法や各種面接法の他、国内外の文献検索サイト、官公庁や研究施設の二次データサイト、ゲノムやプロテインデータベースなど通して収集されたデータについて、専門の数理統計解析用プログラムやグラフ描画ソフトを使った解析方法を学ぶ。さらにデータ解析によって得られた結果について、数理統計学的な観点から解釈される意義とともに、健康科学やストレス科学を踏まえた判読や解釈手法のトレーニングを行い、実際のフィールドに活用、還元可能な健康情報へと展開するためのスキル修得を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 鍵谷方子/2回) 健康情報処理の実際を体験する。具体的には、心電図や血圧計測データを適切かつ目的に合う方法で処理・解析し、結果を表現する方法を修得する。</p> <p>(② 中山和久/3回) 質的な健康情報処理の実際を体験する。具体的には、文献・面接・質問紙自由記載などの手法を用いて質的な健康情報を収集し、判読・解釈し、アドバイスの作成に向けて整理する。</p> <p>(5 矢島孔明/2回) 健康情報データの処理方法と留意点を解説する。 健康情報処理の実際を体験する。具体的には、質問紙統計解析と生体情報データを組み合わせた量的なデータ処理を体験する。</p> <p>(⑤ 矢澤順根/2回) 健康情報処理に関する実際の分析作業を体験する。具体的には、「こころ」と「からだ」に関する量的データについて、統計解析の考え方を理解し、ソフトウェアを用いて解析する。扱うデータとしては、主に質問紙調査や行動観察により得られたものを想定する。</p> <p>(⑥ 小岩信義/3回) 健康情報処理の実際を体験する。具体的には、信号処理の基本となる概念と解析手法を、専門のプログラムを使って修得する。</p> <p>(⑩ 吉田浩子/3回) 健康情報処理の実際を体験する。具体的には、文献資料を用いたASD(自閉症スペクトラム障がい)児者の行動変容を目的とした介入における効果測定方法の検討を通して学ぶ。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ストレス評価学	○	<p>収集された健康情報やデータを体系的、科学的かつ理論的にアセスメントするために必要な知識とスキルを修得する。ストレス要因とストレス反応、およびこれをつなぐ心身機能と個体差を健康情報やデータに基づいて適切に評価するためには、人間のストレス行動とその基礎となる生物学や神経科学、心理学の理解が必要である。そのうえで、適切な評価項目とこれを構成するパラメータや指標を選択し、情報が収集された背景や状況、データの特質を踏まえた専門的な処理と解釈を行うことが不可欠である。心身相関の科学を踏まえたアセスメントとこの評価結果を第三者に伝えて共有する上で必要となるツールや表現方法の学修も含めて、科学的なストレス評価方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 鍵谷方子/3回) 近年のストレス科学の動向を踏まえて、ストレス評価について取り入れるべき視点と方法について学修する。 心電図や血圧情報に基づくストレス評価の方策と手法を学修する。</p> <p>(5 矢島孔明/2回) ストレス反応により生じる生体分子の背景と影響、および評価法を学修する。</p> <p>(4 鈴木康弘/4回) 質問紙調査票を用いたストレス評価法を学修する。 半構造化面接と構造化面接によるストレス評価法を学修する。</p> <p>(5 矢澤順根/2回) 心理学実験と心理尺度を用いたストレス評価法を学修する。</p> <p>(6 小岩信義/2回) 脳波周波数解析を使ったストレス評価法の原理と方法を学修する。</p> <p>(11 吉田浩子/2回) 質問紙自由記述、フェイスシートを活用したストレス評価法を学修する。</p>	オムニバス方式
	ストレスマネジメント演習	○	<p>個人や家庭が抱える健康課題についてストレス科学の観点から抽出し、実生活のなかで活用、応用できる健康支援内容の提案を前提としたデータの収集方法や解析、評価方法を計画、構築する。さらにこのプロセスを通して形成される健康情報を基に、エビデンスに基づいた健康支援とアドバイスの実践体験を行う。この体験を通して、個人や家庭などのスモールグループのストレスコーピングをサポートする上で必要となる専門的な健康情報マネジメント技術の修得を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 鍵谷方子/2回) 個人を対象に自律神経系生理指標の計測、計測データに基づくストレス評価、ストレスマネジメント法の提案とその効果の把握、の一連の過程を体験する。</p> <p>(5 矢島孔明/4回) ストレス科学に基づく健康支援を概観する。 一日の行動記録をタイムスタディにより査定を行い、ストレスマネジメントへのアドバイスをを行う視点を養う。</p> <p>(4 鈴木康弘/4回) 質的データに基づくアドバイスや行動によって対象のストレスを軽減する。リラクゼーション法である自律訓練法の実践に基づくセルフケアを体験する。</p> <p>(5 矢澤順根/2回) 認知機能の健康についてデータを分析し、分析結果から個人に対する健康アドバイスを構築する学修を行う。</p> <p>(6 小岩信義/3回) 脳波計を用いたストレスマネジメント法を体験的に学ぶ。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
コア科目 人間の統合的理解	ヒューマン I	○	<p>テキスト「ヒューマン」では、人間をこころ・からだ・文化の面から追求し、学際的・科学的に探究する「人間総合科学」の本質を学べるよう、生命誕生から未来社会の人類の存在まで展望した広範な課題が解説されている。人間・生命の本質の統合理解をもとに、各自が「よりよく生きるための知恵」を育むこと目指している。</p> <p>本科目では、第1章人間そのものに学ぶ統合科学の新たな視点、第2章人間の「こころ」と「からだ」の統合理解、第3章人間らしさを育んできた「文化・社会」の統合理解、について学ぶ。具体的には、生命・生命活動の基本を理解したうえで、脳の発達に伴い共感システムを育んできた人間がストレスを乗り越えて進化してきたことを学ぶ。「こころ」と「からだ」がつながりつつ生涯にわたって発達・変化していく特徴を理解する。人類の進化、集団・家族から社会形成への流れ、文明と宗教の誕生、芸術の起源、個人行動と社会制度やコミュニケーション手段について学び、文化の系譜の多様性について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 鍵谷方子/1回) 心身の健康を維持する生体内の仕組みを学ぶ。</p> <p>(2 川村春美/1回) 文明の進化とAI・人工知能について学ぶ。</p> <p>(① 小柴満美子/1回) 精神生物学の知見を紹介しながら、共感性を軸に人間の社会性の発達について学習する。</p> <p>(② 中山和久/3回) 農耕文化・食文化から見た日本文化の特徴、文化と社会と宗教の関係、世界の宗教と人間観について学ぶ。</p> <p>(5 矢島孔明/2回) 遺伝子のはたらきを調節する仕組み、栄養の重要性和脳と腸の関連性を学ぶ。</p> <p>(⑤ 矢澤順根/1回) 社会性に必要な認知とコミュニケーションについて学ぶ。</p> <p>(⑥ 小岩信義/1回) 「こころ」と「からだ」の関係について呼吸を中心に学ぶ。</p> <p>(⑦ 鈴木はる江/2回) 人類進化と脳の発達、こころを持つ人間の特徴、心身相関、ストレスの仕組みと対処について学ぶ。</p> <p>(⑩ 吉田浩子/2回) 化石人類の系譜と人類進化、人間が社会の中で生活を営む上で制度が果たす役割と意義を学ぶ。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・② 中山和久・5 矢島孔明・⑤ 矢澤順根・⑥ 小岩信義・⑦ 鈴木はる江・⑩ 吉田浩子/1回) (共同)</p> <p>人間の特徴の理解からより良く生きる知恵へ活かすために、グループ・ディスカッションと全体ディスカッションを通して人間の特徴を振り返り、統合的に人間を捉える。(総合討論)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科(通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ヒューマンII	○	<p>人間総合科学Iに続く科目である。テキスト第4章人類の進化からみた健康・疾病の予防、第5章人類の未来を創るために、について学ぶ。</p> <p>本学がとらえる人間理解の特徴となる「心身相関の科学」の枠組みには、2つの時間軸が存在する。1. ライフサイクルという各個人が生涯発達過程の中で持つ時間軸と、2. 生物としてヒトが持つ人類進化の時間軸である。この2つの時間軸の中で心身相関の仕組みを理解することで、より深く総合的な人間理解が可能となる。とりわけ2は、動物行動学者であるティンバーゲンが提唱した「究極因」: Whyの観点からヒトのこころとからだを理解することに通じるアプローチであり、本科目前半では、この視点から心身相関の統合理解を試みる。進化的に身体、精神的な疾病が成り立つ仕組みとともに、この機序を支える進化的な生物およびヒトの理解を通して、いのち、健康とは何かを考究する。本科目後半では、人間を「こころ」「からだ」「文化・社会」から総合的・科学的に探究する「人間総合科学」のエッセンス(本質)を学ぶとともに、近年発展著しい先端科学のトピックスについても理解する。この学修を通して、現代と未来に向けて自らの人生を創り出すための「よりよく生きるための知恵」のヒントを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 鍵谷方子/1回) ライフサイクルに応じた健康維持について考える。</p> <p>(2 中山和久/1回) 進化による環境への適応と人類誕生との関係、文化による環境への適応・不適応の視点から、社会、文明の誕生や各種疾病の成り立ちについて考察する。</p> <p>(5 矢島孔明/2回) 遺伝情報変化と環境変化は、どのように生体システムに変容を与えるかを考える。 DNAと環境の関係を理解し、生活改善を考える。</p> <p>(3 増田和宏/1回) 未来の人々の健康と技術革新について考える。</p> <p>(4 鈴木康弘/2回) 進化生物学や人類学の観点から医学を見つめ直す。適応進化や究極要因について概説する。情報社会のストレスの特徴とストレス対処を身体的側面から考える。</p> <p>(5 矢澤順根/1回) ヒトの認知を進化の観点から俯瞰して考察する。</p> <p>(6 小岩信義/2回) 進化の観点から、ストレス学説を検証し、ヒトに備わるストレス反応システムについて再考する。 未来社会の特徴を理解し、心身問題について考える。</p> <p>(7 鈴木はる江/1回) 情報社会のストレスの特徴とストレス対処を身体的側面から考える。</p> <p>(11 吉田浩子/3回) ヒト以外の動物を対象とした動物行動学に基づく学際的な観点から、ヒトの行動とこころを捉え直す。特に子育てを対象として、本科目のキーワードである「進化」と「究極要因」を探究する。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 中山和久・5 矢島孔明・3 増田和宏・4 鈴木康弘・5 矢澤順根・6 小岩信義・7 鈴木はる江・11 吉田浩子/1回) (共同) ヒューマンIとIIの内容に基づき、人間とは何か、ヒトとは何かの科学的理解を目指した議論を行う。(総合討論)</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	心身健康科学 I	○	<p>心身健康科学とは、学際的、統合的なアプローチによって健康科学の領域を専門的に研究しようとする領域である。人間のこころとからだの有機的関連性である心身相関の科学的基礎を学ぶとともに、人間の心身の発達や健康維持に必要な事柄を理解して、自らのよりよく生きるための知恵を考察する。本科目の学修を通じて、心身相関の科学的基盤を理解し、人間の心身発達および健康維持に必要な知恵を学ぶことで、学修者が自らの人生に役立てる知恵を考察する能力を育成する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 鍵谷方子/2回) 免疫学の概要について、心身相関の視点から学ぶ。 免疫系の仕組みを学び、ストレスにより免疫系がどのような影響を受けるか理解する。</p> <p>(③ 増田和宏/1回) 脳・こころの相互関係とAIの交点を探る。</p> <p>(⑤ 矢澤順根/2回) 発達科学の視点から、乳幼児特有の心身相関の現象、乳幼児特有の脳機能とストレス応答について学ぶ。</p> <p>(⑥ 小岩信義/3回) 脳神経科学の概要について学ぶ。脳神経系の特徴に基づき、ヒト(人間)の認知機能の特徴、健康に関する課題について学ぶ。</p> <p>(⑦ 鈴木はる江/6回) 我々が直面している現代社会の特徴と照らし合わせて、ヒト(人間)のこころとからだ、心身相関について、最新の知見を学ぶ。さらに心身相関の適用・応用可能性について学び全人的心身健康モデルの創出を考察する。 本学の建学の精神と心身健康科学の特徴、心身健康科学の中心軸である心身相関について学ぶ。心身相関を支える生理学的・神経学的メカニズムについて学ぶ。</p> <p>(1 鍵谷方子・③ 増田和宏・⑤ 矢澤順根・⑥ 小岩信義・⑦ 鈴木はる江/1回) (共同) 建学の精神と心身健康科学の特徴、心身健康科学の中心軸である心身相関について、本科目の内容を振り返りながら課題にそってグループ・ディスカッションを行い、心身健康科学の学問を実社会でどのように活かすことができるか議論する。(総合討論)</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	心身健康科学Ⅱ	○	<p>ウェルビーイングの実現のためには、DNAやホルモン、神経伝達物質など分子・細胞レベルのデータから、心拍や呼吸、行動データといった個体レベルの情報が時間軸に沿って多層的に蓄積される複雑なデータ構造をビッグデータとして総合的に考察できる人材が求められる。学修を通じて、個人および集団における健康の全体像を生物学的、心理学的、社会的立場から多層的に捉えた上で、ストレス対処や免疫力向上を科学的に探求し、共生社会でよりよく生きるための意欲と能力をもった人間を育む。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 鍵谷方子/3回) ライフサイクルという視点から、心身の健康を考えることの重要性を学ぶ。 女性の生物学的特徴について、特に月経・妊娠・出産の時期に伴う心身の変化について、男性のライフサイクルと比較しながら学ぶ。</p> <p>(2 川村春美/1回) 高齢社会の未来と心身健康科学について、テクノロジーがどのように高齢者の心身の健康に寄与し、自立や社会参加を支援しうるのがかを考える。</p> <p>(① 小柴満美子/2回) 神経生物学の視点から、コミュニケーションと共感性について学ぶ。</p> <p>(⑧ 佐藤慎一郎/1回) 科学の成果に基づき、健康の促進を促す活動について考える。</p> <p>(5 矢島孔明/3回) 栄養・食の領域における、心身健康科学の重要性や心身健康科学の応用について学ぶ。加齢に伴うこころとからだの変化について、その概要を学ぶ。</p> <p>(④ 鈴木康弘/2回) ストレス科学の概要と、ストレス応答について学ぶ。ストレスについて、臨床心理学の視点から学ぶ。</p> <p>(⑩ 吉田浩子/2回) こころ、からだ、環境・社会の3側面を総合して、生命とは何かという問いについて学ぶ。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・⑦ 佐藤慎一郎・5 矢島孔明・④ 鈴木康弘・⑩ 吉田浩子/1回) (共同) 「心身健康科学Ⅰ」と「心身健康科学Ⅱ」の授業の総まとめとして、心身健康科学の発展可能性について議論し、よりよく生きる知恵への発展を考える。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ウェルビーイングフィールド実践	ウェルビーイング演習	○	<p>人々のウェルビーイングを促進し、社会に提案するための「課題発見・目標設定力」や「行動力」「分析・評価力」「改善・実効力」の基礎力を体験的、実践的に養う。本科目では、「UHAS ウェルビーイング・スタジオ」における、創造的体験空間、メンタルヘルスクエア技術の開発空間、科学的な情報発信トレーニング空間、企業人・社会人とのインタラクション空間を活用して、AI、バーチャルリアリティ (VR)、3Dプリンター、ウェアラブルデバイスなどの先端技術を用いた演習を行う。個々の健康状態やストレス反応、心身の状態を可視化・リアルタイムモニタリングする技術活用などの体験や、ハッカソン形式などによるデータサイエンスの視点から健康社会を支えるアイデアの創出と具現化プロセスの体験から、実践的に学ぶ。さらに、演習成果や提案内容をHPやポートフォリオとして整理・発信する体験をすることで、学びを可視化し、社会や地域との効果的な情報共有の力を育成する。また、自治体や企業からの外部講師との交流を通じて実社会の課題への理解を深め、未来のウェルビーイング社会の創出に向け、リーダーシップを発揮するための基礎力を育成する。</p> <p>(2 川村春美・① 小柴満美子・21 小田一之・35 西田吉克/全8回) (共同)</p> <p>(2 川村春美/全8回) データサイエンスを活用した視点で、先端技術を用いたアクティブラーニングを行う。</p> <p>(① 小柴満美子/全8回) 生命工学や精神生物学の視点とテクノロジーを融合してウェルビーイング創出に向けたアクティブラーニングを行う。</p> <p>(21 小田一之/全8回) ヘルステックを扱う企業人としての視点で、テクノロジーを活用したウェルビーイング創出に向けたアクティブラーニングを行う。</p> <p>(35 西田吉克/全8回) WebやXRのエンジニアとしての視点で、テクノロジーを活用したウェルビーイング創出に向けたアクティブラーニングを行う。</p>	共同
	ウェルビーイング地域支援演習Ⅰ	○	<p>本科目では、実際に企業や地域自治体の活動に参加し、現場での体験を通じて課題発掘力や発想力、解決力を養う。フィールドワークを通じ、地域の課題発見や解決策の考案・実践、ウェルビーイング向上への具体的な取り組みやプロセスを体験する。これにより、「行動力」「分析・評価力」「改善・実効力」を高め、社会貢献につながる力を育成する。地域住民や関係者との対話を通じ、協力関係を築くためのコミュニケーション能力も養う。</p>	
	ヘルスデータインターンシップ	○	<p>健康・医療関連の企業や組織での実務体験を通じて、専門的なスキルや知識を深める。健康関連機器製作会社や、製薬会社、福祉施設などヘルスデータを扱う職場で業務を経験する。ここでは、身体的健康データだけでなく、心理的狀態に関するデータの収集・解析・活用も含まれる。業務のサポートを通じて、理論と実践を結びつけ、身体的・心理的側面から人々のウェルビーイングの実現に役立つ実践的な理解・学修とスキルの習得を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全45回)</p> <p>(① 小柴満美子・21 小田一之/5回) (共同) 事前にオリエンテーション、事前準備、研修中には中間進捗・フィードバック、事後には成果発表とフィードバックを行う。</p> <p>(① 小柴満美子/40回) 企業・施設内等の実習先で健康・医療データの収集プロセスの学習と実践を行う。</p>	オムニバス方式・共同

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ウェルビーイングツーリズム		<p>本科目では、自然環境や文化的体験、地域の人々との交流を通じて心身の健康を促進するウェルビーイング実践のあり方を学ぶ。ウェルビーイングツーリズムは、地域資源を活用し、個人の幸福や健康を向上させるとともに、持続可能な地域づくりにも貢献する。本科目では、ヘルスツーリズムやエコツーリズムなどの先進事例を参考に、自治体や観光業界の専門家との協働を通じた実践的な学びを行う。社会的なウェルビーイング実装の形として、高知県四万十町のグランピング施設を活用した高齢者のための宿泊型講座『Learning Holiday™・プログラム』や埼玉県北本市の森林セラピースポットでの講座『森林セラピー・プログラム』などのフィールドへのボランティア参加や、運営、講座担当などを体験することを通して、広く多角的な視野や行動力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全23回)</p> <p>(1 鍵谷方子・5 矢島孔明/21回) (共同) 実習先にて、ヘルスツーリズムやエコツーリズムなどの先進事例を参考に、自治体や観光業界の専門家との協働を通じた実践的な学びを行う。</p> <p>(1 鍵谷方子・5 矢島孔明・29 中村美佳/3回) (共同) 事前学修として、ウェルビーイングツーリズムの基本概念を理解し、本科目の目的と進行内容を把握する。実習後には、振り返りを行い、プログラムの成果を発表し、外部関係者からのフィードバックを得る。</p>	オムニバス方式・共同
	ウェルビーイング地域支援演習Ⅱ		<p>ウェルビーイング地域支援演習Ⅰで学んだ知識やスキルや情報を基に、実際に地域支援プロジェクトを立案し、実行する。課題解決策や支援プロジェクトを設計し、地域に実際に支援活動を行う。プロジェクトの進行状況に応じて改善策を取り入れ、実践的な学びを深める。プロジェクトを実行する過程で、組織運営やチームワーク、リーダーシップ、問題解決能力を養う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	こころとからだのウェルビーイングプロジェクト	○	<p>本科目では、個人や社会のウェルビーイング向上に向けた実践的なプロジェクトを企画・実施する。グループでの活動を通じて、ウェルビーイングに関するアイデアを具体的なプランに落とし込み、自ら実装する一連のプロセスを実践的に学び、ウェルビーイングの創出を社会で実行できる能力を養う。授業の一環としてアイデアソン・ハッカソンを実施し、短期間で集中的にアイデアを創出し、具体的な提案や実践的な仕組みへと形にするようなチームで課題解決に取り組む機会を提供する。</p> <p>プロジェクトの最終段階では、発表会を行い、企業や地域の関係者を招いて成果を評価してもらう機会を設け、社会でウェルビーイング向上に貢献する実践力を育む。ここで得られた成果と評価によるフィードバックを踏まえ、さらなる検討を重ねる場として『総合演習』へつなげる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・② 中山和久・5 矢島孔明・③ 増田和宏・④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根・⑥ 小岩信義・⑦ 鈴木はる江・⑧ 吉田浩子・28 鳥井浩助/1回) (共同)</p> <p>オリエンテーションとプロジェクト概要の共有、授業の進行計画を理解し、プロジェクトの目的や進め方についてグループで確認する。</p> <p>(① 小柴満美子・28 鳥井浩助/5回) (共同)</p> <p>ウェルビーイング課題の探索と仮説立案、創造的アイデアの創出、アイデアを形にするプロセスを体験する。</p> <p>(① 小柴満美子/7回)</p> <p>プロジェクト実施とデータ収集、収集したデータを基にウェルビーイング向上に向けた提案を作成する。最後にプロジェクトの総括を行う。</p> <p>(① 小柴満美子・18 飯塚愛・21 小田一之・28 鳥井浩助/1回) (共同)</p> <p>中間発表として各チームによる進捗報告を行い、フィードバックを受けるとともにそれらを共有する。反映方法の議論、次のステップの計画作成を行う。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・② 中山和久・5 矢島孔明・③ 増田和宏・④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根・⑥ 小岩信義・⑦ 鈴木はる江・⑧ 吉田浩子・18 飯塚愛・21 小田一之・28 鳥井浩助/1回) (共同)</p> <p>学修内容：発表会を通じて成果を発表し、企業や地域関係者からフィードバックを受ける。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
ゼミ型探究実践演習	こころとからだのウェルビーイング探究Ⅰ	○	<p>心身健康科学科 (通学課程) での学びを円滑に行うために、ヒトの基本的理解および学際的・統合的理解の基盤となる科目「ヒューマンⅠ・Ⅱ」や「心身健康科学Ⅰ・Ⅱ」での学びや、学生同士および教員とのコンタクトは重要である。一年次前期に設定されている本科目では、その第一歩として、学生同士および教員と互いにコミュニケーションをとり、同時期に学修する「ヒューマンⅠ」や「心身健康科学Ⅰ」での学びを確認しながら、4年間で何を学び、何を修得し、課題とするのか、ゴールに向けた目標を設定することを目的とする。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・② 中山和久・5 矢島孔明・③ 増田和宏・④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全8回) (共同)</p> <p>(1 鍵谷方子/8回) 生理学や自律神経生理学の視点からのアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて目標を設定する。</p> <p>(2 川村春美/8回) データサイエンスを活用したアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて目標を設定する。</p> <p>(① 小柴満美子/8回) 生命工学や精神生物学の視点、テクノロジーを活用したアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて目標を設定する。</p> <p>(② 中山和久/8回) 文化人類学の視点からのアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて目標を設定する。</p> <p>(5 矢島孔明/8回) 生理学や生命科学の視点からのアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて目標を設定する。</p> <p>(③ 増田和宏/8回) データサイエンスの視点やAIを活用したアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて目標を設定する。</p> <p>(④ 鈴木康弘/8回) 臨床心理学の視点からのアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて目標を設定する。</p> <p>(⑤ 矢澤順根/8回) 心理学の視点からのアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて目標を設定する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	こころとからだのウェルビーイング探究Ⅱ	○	<p>前期科目「こころとからだのウェルビーイング探究Ⅰ」では、心身健康科学科通学課程の4年間を通じて各自が進める目標（テーマ）を設定した。一年次後期に設定されている本科目では、前期科目に続きヒトの基本的理解および学際的・統合的理解の基盤となる科目「ヒューマンⅠ・Ⅱ」や「心身健康科学Ⅰ・Ⅱ」の学びを確認しながら、設定した各自のテーマについて深める。その際、どのように学び情報を収集していくのかを考え、社会のニーズを探り、同時期に履修する科目「ウェルビーイング演習」で体験的・実践的に学ぶアイデアや各種技術を取り入れて磨くことを主体的に進める。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・② 中山和久・5 矢島孔明・③ 増田和宏・④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全8回) (共同)</p> <p>(1 鍵谷方子/8回) 生理学や自律神経生理学の視点からのアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて情報収集や活用するスキルを高める。</p> <p>(2 川村春美/8回) データサイエンスを活用したアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて情報収集や活用するスキルを高める。</p> <p>(① 小柴満美子/8回) 生命工学や精神生物学の視点、テクノロジーを活用したアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて情報収集や活用するスキルを高める。</p> <p>(② 中山和久/8回) 文化人類学の視点からのアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて情報収集や活用するスキルを高める。</p> <p>(5 矢島孔明/8回) 生理学や生命科学の視点からのアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて情報収集や活用するスキルを高める。</p> <p>(③ 増田和宏/8回) データサイエンスの視点やAIを活用したアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて情報収集や活用するスキルを高める。</p> <p>(④ 鈴木康弘/8回) 臨床心理学の視点からのアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて情報収集や活用するスキルを高める。</p> <p>(⑤ 矢澤順根/8回) 心理学の視点からのアプローチを軸に、「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から人間を統合的に理解する心身健康科学の視点を深め、アクティブ・ラーニングを通じて目標を設定する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	こころとからだのウェルビーイング探究Ⅲ	○	<p>本科目では、1年次の「こころとからだのウェルビーイング探究Ⅱ」に引き続き各自の目標（テーマ）の達成に向かってブラッシュアップする。その際、1年次に学んだ『コア科目』や『分野別科目』・『基本科目』での知識および技術を周囲の協力も引き出しながら活用・融合・深化・向上させるとともに、自身の目標についての課題解決策の具体化と予備的な実践・実行を行う。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・② 中山和久・5 矢島孔明・③ 増田和宏・④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全8回) (共同)</p> <p>(1 鍵谷方子/8回) 生理学や自律神経生理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点から課題解決策を計画し、実践・実行するための準備・試行を行う。</p> <p>(2 川村春美/8回) データサイエンスを活用したアプローチを軸に、心身健康科学の視点から課題解決策を計画し、実践・実行するための準備・試行を行う。</p> <p>(① 小柴満美子/8回) 生命工学や精神生物学の視点、テクノロジーを活用したアプローチを軸に、心身健康科学の視点から課題解決策を計画し、実践・実行するための準備・試行を行う。</p> <p>(② 中山和久/8回) 文化人類学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点から課題解決策を計画し、実践・実行するための準備・試行を行う。</p> <p>(5 矢島孔明/8回) 生理学や生命科学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点から課題解決策を計画し、実践・実行するための準備・試行を行う。</p> <p>(③ 増田和宏/8回) データサイエンスの視点やAIを活用したアプローチを軸に、心身健康科学の視点から課題解決策を計画し、実践・実行するための準備・試行を行う。</p> <p>(④ 鈴木康弘/8回) 臨床心理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点から課題解決策を計画し、実践・実行するための準備・試行を行う。</p> <p>(⑤ 矢澤順根/8回) 心理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点から課題解決策を計画し、実践・実行するための準備・試行を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	こころとからだのウェルビーイング探究Ⅳ	○	<p>本科目では、2年次前期の「こころとからだのウェルビーイング探究Ⅲ」に引き続き各自の目標（テーマ）の達成に向かって設定した課題解決策を実践・実行しながら、成果の分析・評価するための技能も高める。その際、1年次・2年次に学んだ『コア科目』や『分野別科目』・『基本科目』での知識および技術を実践的に活用して深化・向上および発展させる。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・② 中山和久・5 矢島孔明・③ 増田和宏・④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全8回) (共同)</p> <p>(1 鍵谷方子/8回) 生理学や自律神経生理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点から計画した課題解決策を実践・実行するとともに、最適な成果の分析・評価方法を探る。</p> <p>(2 川村春美/8回) データサイエンスを活用したアプローチを軸に、心身健康科学の視点から計画した課題解決策を実践・実行するとともに、最適な成果の分析・評価方法を探る。</p> <p>(① 小柴満美子/8回) 生命工学や精神生物学の視点、テクノロジーを活用したアプローチを軸に、心身健康科学の視点から計画した課題解決策を実践・実行するとともに、最適な成果の分析・評価方法を探る。</p> <p>(② 中山和久/8回) 文化人類学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点から計画した課題解決策を実践・実行するとともに、最適な成果の分析・評価方法を探る。</p> <p>(5 矢島孔明/8回) 生理学や生命科学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点から計画した課題解決策を実践・実行するとともに、最適な成果の分析・評価方法を探る。</p> <p>(③ 増田和宏/8回) データサイエンスの視点やAIを活用したアプローチを軸に、心身健康科学の視点から計画した課題解決策を実践・実行するとともに、最適な成果の分析・評価方法を探る。</p> <p>(④ 鈴木康弘/8回) 臨床心理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点から計画した課題解決策を実践・実行するとともに、最適な成果の分析・評価方法を探る。</p> <p>(⑤ 矢澤順根/8回) 心理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点から計画した課題解決策を実践・実行するとともに、最適な成果の分析・評価方法を探る。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	こころとからだのウェルビーイング探究Ⅴ	○	<p>本科目は、1年次、2年次で履修する「こころとからだのウェルビーイング探究Ⅰ・Ⅱ／Ⅲ・Ⅳ」と連続性をもつ。1年次、2年次に進めてきた各自の目標設定（課題発見）、課題解決の方策の探究と実践、最適な成果の分析・評価方法の修得と実践について、2年次に履修した「ヘルスデータインターンシップ」「ウェルビーイング地域支援演習」での地域コミュニティや企業などでの体験的学びを踏まえて振り返り見直す。その過程で、社会のニーズを把握し、高めてきたAI・データサイエンスの技能や学際的・統合的な人間理解を融合させ、課題発見・目標設定（Plan）を行い、課題解決策を計画（Do）、成果を分析・評価（Check）、計画を改善し実効する（Action）、PDCAを自ら回す力を向上させる。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・② 中山和久・5 矢島孔明・③ 増田和宏・④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全8回) (共同)</p> <p>(1 鍵谷方子/8回) 生理学や自律神経生理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点で「課題発見・目標設定力」「行動力 (Do)」「分析・評価力」「改善・実効力」を養う。</p> <p>2 川村春美/8回) データサイエンスを活用したアプローチを軸に、心身健康科学の視点で「課題発見・目標設定力」「行動力 (Do)」「分析・評価力」「改善・実効力」を養う。</p> <p>(① 小柴満美子/8回) 生命工学や精神生物学の視点、テクノロジーを活用したアプローチを軸に、心身健康科学の視点で「課題発見・目標設定力」「行動力 (Do)」「分析・評価力」「改善・実効力」を養う。</p> <p>(② 中山和久/8回) 文化人類学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点で「課題発見・目標設定力」「行動力 (Do)」「分析・評価力」「改善・実効力」を養う。</p> <p>(5 矢島孔明/8回) 生理学や生命科学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点で「課題発見・目標設定力」「行動力 (Do)」「分析・評価力」「改善・実効力」を養う。</p> <p>(③ 増田和宏/8回) データサイエンスの視点やAIを活用したアプローチを軸に、心身健康科学の視点で「課題発見・目標設定力」「行動力 (Do)」「分析・評価力」「改善・実効力」を養う。</p> <p>(④ 鈴木康弘/8回) 臨床心理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点で「課題発見・目標設定力」「行動力 (Do)」「分析・評価力」「改善・実効力」を養う。</p> <p>(⑤ 矢澤順根/8回) 心理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学の視点で「課題発見・目標設定力」「行動力 (Do)」「分析・評価力」「改善・実効力」を養う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	こころとからだのウェルビーイング探究VI	○	<p>本科目は、「こころとからだのウェルビーイング探究V」で設定した目標を元に、総合演習（人間総合科学の探究）に繋がる探究の準備を行うとともに、課題それぞれの成果を学生同士や担当教員とのディスカッションを通して披露することで、科学的な表現力や思考力、コミュニケーション能力も養う。本科目の学修により、自らの目標（テーマ）に向けた実践的なスキルを実践的に磨き、専門的な知識を深める。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・② 中山和久・5 矢島孔明・③ 増田和宏・④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全8回) (共同)</p> <p>(1 鍵谷方子/8回) 生理学や自律神経生理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学を基盤にAI・データサイエンスを活用しPDCAを自ら回して社会における多様な課題への対応力を養う。</p> <p>(2 川村春美/8回) データサイエンスを活用したアプローチを軸に、心身健康科学を基盤にAI・データサイエンスを活用しPDCAを自ら回して社会における多様な課題への対応力を養う。</p> <p>(① 小柴満美子/8回) 生命工学や精神生物学の視点、テクノロジーを活用したアプローチを軸に、心身健康科学を基盤にAI・データサイエンスを活用しPDCAを自ら回して社会における多様な課題への対応力を養う。</p> <p>(② 中山和久/8回) 文化人類学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学を基盤にAI・データサイエンスを活用しPDCAを自ら回して社会における多様な課題への対応力を養う。</p> <p>(5 矢島孔明/8回) 生理学や生命科学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学を基盤にAI・データサイエンスを活用しPDCAを自ら回して社会における多様な課題への対応力を養う。</p> <p>(③ 増田和宏/8回) データサイエンスの視点やAIを活用したアプローチを軸に、心身健康科学を基盤にAI・データサイエンスを活用しPDCAを自ら回して社会における多様な課題への対応力を養う。</p> <p>(④ 鈴木康弘/8回) 臨床心理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学を基盤にAI・データサイエンスを活用しPDCAを自ら回して社会における多様な課題への対応力を養う。</p> <p>(⑤ 矢澤順根/8回) 心理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学を基盤にAI・データサイエンスを活用しPDCAを自ら回して社会における多様な課題への対応力を養う。</p>	共同
分野別科目	こころとからだの関係	○	<p>心理学は、人間の心の機能や行動を科学的に解明し、こころ、からだ、文化・社会の側面から人間を総合的に理解するために重要な学問である。本科目では、社会生活との関わりを通して心理学を学び、心身の健康と豊かな暮らしを支える社会の構築に心理学を応用する方法を探究する。心理学の歴史や脳と五感の関係、学習や記憶といった高度な心の働き、性格や対人関係の理解、発達段階に応じた心の変化、そして心の健康と心理療法を扱い、心理学的視点から自分を客観的に捉え、他者とのコミュニケーションのあり方を深く理解し、社会で活用する力を養う。</p>	
	行動科学概論	○	<p>人間・ヒトの行動とこころについて、生物学、心理学、人類学、社会学、健康科学、医学といった幅広い分野の知見から説明する。神経や生理といったミクロな視点と、社会や文化や進化といったマクロな視点の双方から、行動とこころの仕組みや機能について解説する。行動とこころについて、統合的に理解するとはどういうことか、科学的に研究するとはどういうことかについても、考察するきっかけを提供し、現代社会における人間の営みに関心をもち、心身の健康を科学的に洞察する力を養うことを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	こころと行動の測り方	○	本科目は、「こころ」と「行動」について、基本的な測定技術を学ぶことを目的とする。具体的には、学生は調査紙、心理テスト、生理学的指標など、様々なデータ収集方法について学ぶ。また、実際のデータを使用して分析の基礎を習得し、こころの健康や行動の背後にあるメカニズムを理解するための実践的なスキルを身につける。この科目を通じて、こころと行動の相互作用を科学的に評価し、解析する能力を養う。	
	人間関係論		心理的安全性を軸に、効果的なチームワークのあり方について学習する。職場や地域コミュニティなどでの心理的安全性を高め、効果的なチームワークを促進するためにどのような対話のかたちが心理的安全性を高めるか、自身の経験を照らし合わせながら学ぶ。また、リーダーシップの重要性や、具体的な対話の方法、リーダーの行動や声かけのポイントを学ぶことを通じて、人間関係が円満で活気あふれるチームづくりを実践する力の養成を目指す。	
	こころの科学と検査－基礎	○	心理検査は一般的に「心理テスト」とも呼ばれるが、本来は様々な心理学の理論や研究に基づいて開発された科学的側面を有しており、心理検査を受けたり、実施する上では多くの留意すべき点が存在する。そこで、授業ではまず心理検査の歴史や、心理検査の質を評価する上での指標となる信頼性、妥当性などの基礎知識を学ぶ。また、正確な心理検査の概観を理解し、適切に受検・実施し、心理検査を実施した後は考察した所見をまとめられることが重要であり、実習を通して正しい心理検査の概要を理解することを目的とする。 (④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全15回) (共同)	共同
	こころの科学と検査－応用		心理検査の歴史や、心理検査の質を評価する上での指標となる信頼性、妥当性などの基礎知識を学ぶ。正確な心理検査の概観を理解し、適切に受検・実施し、心理検査を実施した後は考察した所見をまとめられることが重要であり、実習を通して正しい心理検査の概要を理解することを目的とする。本科目は、「こころの科学と検査－基礎」と連続した授業であり、基礎を復習をしながら、応用編として投映法を中心とした心理検査について学んでいく。応用の授業では、心理検査を受検する学修機会も設ける。 (④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全15回) (共同)	共同
	こころの科学と実験－個人		本科目では、個人の心理に関する科学的理解を深めるため、実験心理学の基礎を学び、実験手法を習得する。知覚・認知・感情・意思決定など、個人の心理過程を測定・分析する方法を学び、心理データの収集や解析の基礎技術を身につける。実験結果の解釈や統計的分析を通じて、心理現象を科学的に考察する力を養う。また、実験倫理にも触れ、適切な研究デザインについて理解を深める。 (④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全15回) (共同)	共同
	こころの科学と実験－集団		本科目は、「こころの科学と実験－個人」に続く科目である。集団や社会的要因が人の心理に与える影響に関する理解を深めるために、対人認知、社会的影響、集団行動、コミュニケーションなどをテーマに、実験心理学の手法を用いた研究手法を学ぶ。データ収集、統計分析、結果の解釈を実践的に学び、社会心理学の知見を応用する力を養う。また、実験倫理に配慮しながら、社会的行動のメカニズムを科学的に理解することを目的とする。 (④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全15回) (共同)	共同
	カウンセリング入門		カウンセリングにおいて、適切な支援ができるためには、どのようなことが必要かを理解し、知識・理論・技法を学ぶ。医療領域、産業領域、教育領域において支援に携わる職種に就く人、あるいは社会の中で心理的支援業務に携わる人が、相談者との信頼関係を築き、相談者の主体性を引き出すためのカウンセラーが身につける必要のある事柄について総合的に学ぶことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	感性評価論		人間の感性や感情を定量的・定性的に評価する方法を学ぶ。色彩、音、触感、匂いなどがどのように人々の感情や行動に影響を与えるかを理解し、アンケート調査、インタビュー、生体情報測定(バイオメトリクス)などの感性評価手法を習得する。さらに、心理学、認知科学、デザイン学などの知識を組み合わせ、社会や生活の現場で応用できる実践的な評価スキルを習得する。	
	発達心理学		本科目はヒトの胎児から乳幼児、学童、青年、おとな、高齢者と人間の生涯発達の理解を目的としている。人間の発達について生涯に渡るこころとからだ、さらに社会や文化との関係を視野に入れて理解するために、ヒトの発達を心身両面から学ぶ。心身両面より人間の誕生から死に至るまでのプロセスを、各発達段階ごとに概観し、学生同士のグループ・ディスカッションによって学んだ内容を深めていく。以上を通して幅広い視点で人間を理解し、実際に援助できることを目的とする。	
	社会心理学		人間の行動のなかでも他者に影響を与える社会的行動について学ぶ。個人対個人、個人対集団の關係に着目し、より健康な關係を築くための対人コミュニケーションについて理解を深め、人間の心や日常生活の人間同士の関わりを科学的に理解するために、社会心理学について学ぶ。	
	感情・行動パターンの心理学		自分の感情・思考・行動のパターンや人間關係の持ち方に気づくために有用な交流分析(TA)について体系的に学ぶ。TAの基本的理論を理解したうえで、TAのすべての理論を統合したパーソナリティ理論でありかつ治療理論である人格適応論を学ぶことを通して、心身ともに健康な生き方について考え、主体的に社会と関わる積極的姿勢を身に付けることを目標とする。	
	臨床心理学概論		米国心理学会(APA)による臨床心理学の包括的定義「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格的成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問である」を引用し、臨床心理学の特徴として「人間行動がどのように維持発展されるかについての科学的探究にかかわること、および人間の苦悩を生み出す状況を改善し、問題を解決していく専門的援助実践にかかわること」を挙げている。これらのことから、臨床心理学の目的は、科学的な知見に基づいて人々の心身の健康を保持するという心身健康科学の目的に直結するものである。学修者自身や周りの方々にとって、そしてより大きな視点からの、Well-Beingな生き方、在り方の探求に役立てる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ストレス科学	○	<p>現代人は様々なストレスに直面しながら生きている。1930年代に動物で解明されたストレスの神経科学的メカニズムは、人間にも同様に現れるが、人間ではさらに心理的・社会的刺激もストレス反応を引き起こす。このようなストレスの基礎的科学的メカニズムと人間社会のストレスの特徴を学び、各種ストレス反応の評価法やストレスによる健康障害とストレスに対する対処法についても理解を深める。学修を通じて現代社会に生きる人間のストレスについて新たな視座で洞察し、心身共に健康で豊かに暮らすことのできる社会構築に向けて意見を発信できる力を養う。</p> <p>(オムニバス・共同方式/全15回)</p> <p>(1 鍵谷方子/2回) ストレスの生理学的基礎について、ストレス概念の基礎を築いたセリエの全身適応症候群やキャノンの緊急反応について学び、ストレスの生理的仕組みについて概説する。ストレスは生体に本来備わっているホメオスタシスにも影響を及ぼす。その仕組みについても学ぶ。</p> <p>(④ 鈴木康弘/4回) ストレスとメンタルヘルスとして、人間は多数の心理学的・社会的ストレスに曝されている。種々の心理的・社会的ストレスモデルを学び、ストレスの認知的評価、ストレスのコピーング、ストレスマネジメントについて学ぶ。また、ストレスに対応するための方法や考え方、ストレス対処の方策について考える。</p> <p>(⑥ 小岩信義/2回) ストレスは脳の発達に大きな影響を及ぼすため、ストレスの脳科学からのアプローチについて学ぶ。</p> <p>(⑦ 鈴木はる江/4回) ストレスとは何かについて概説する。ついで、現代社会のストレスの特徴やストレスとどう向き合うかなど、ストレスを取り巻く諸問題について概観する。ストレスを原因とする疾患はさまざまなものが知られている。それらの病いについて考える。</p> <p>(1 鍵谷方子・5 矢島孔明/3回) (共同) ストレスは身体に様々な反応を起こす。ストレス反応の様々な測定法について学び、ストレス反応を測定して客観的に評価することの意義について理解する。15回目の授業では、種々のストレスにどのように対応していくのがよいのか、講義のまとめを行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	心身関連の科学	○	<p>人間のこころとからだが密接不可分であるとする心身一如（心身相関）の考え方について、その哲学、宗教的、科学的な背景を学習するとともに、心身一如を支える科学的メカニズムを学び、人間の健康の実現に応用する視点を修得することを目的とする。学修を通じて、人間のこころとからだ、文化の関連性について「心身一如」というキーワードから考え、心身一如の考え方の歴史的な変遷や、健康維持に応用可能となる心身一如（心身相関）の科学的仕組みを理解することにより、学際的な観点から「心身相関」を考える姿勢を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 鍵谷方子/3回) 体性感覚刺激で内分泌系のホルモン分泌に起こる反応を学ぶ。触刺激による身体反応やストレス緩和を理解する。 こころと脳内の神経伝達物質の関係を学び、こころの健康に栄養が重要であることを理解する。 ストレスの概念とストレスによる心身反応の仕組みを学び、ストレスによる健康障害とその対処方法を考える。</p> <p>(⑥ 小岩信義/3回) 心身相関（心身一如）の考え方の歴史を学び、心身相関の科学の重要性と心身健康科学の意義を理解する。 身体機能に様々なリズム（ゆらぎ、振動現象）が存在することを知り、呼吸器のリズムとこころの関係を学ぶ。 人間の欲求の段階を学び、心身の調和と健康の関係を理解する。</p> <p>(⑦ 鈴木はる江/2回) 脳と神経細胞の特徴と感覚の種類を理解し、からだの感覚（体性感覚）の仕組みを学ぶ。 感情・情動の仕組みを理解し、体性感覚刺激で自律神経を介して身体に起こる反応を学ぶ。</p>	オムニバス方式
いのちと健康のしくみ	体育		人が生涯にわたって豊かな生活を送るためには、運動についての幅広い知識とともに、豊かな運動体験をあわせ持つことが必要である。本科目では、運動の仕組みや機能に加え、スポーツの歴史や文化的意義、運動技能・体力を向上させるための科学的知識や方法等を総合的に理解し、体育のあり方について考える。本科目の学修により、スポーツや運動を通じて社会や文化とのつながりを深め、自分自身や身近な人たちの心身の健康や環境等を考慮した適切な運動について、具体的かつ実践的に考える力を養う。	
	健康管理実習		ストレッチの種類や行い方、ストレッチに必要な解剖生理学的基礎知識、ストレッチの評価指標や効果について、近年の研究論文等のエビデンスも参照しながらストレッチの基礎を理解する。関節可動域の拡大、心地よさの体感、ストレッチの安全かつ有効な実践や指導ができるようになることを目的とする。授業は、すべて対面式とし、資料をもとに基礎知識の講義と、セルフおよびペアでのストレッチや様々な器具を使用したストレッチ実習の2つの形式によって進める。	
	人体の構造と機能		解剖学と生理学は、人間の構造と機能を理解するための重要な学問である。解剖学は人体や器官、組織の形態を追求し、生理学はそれらがどのように機能するかを解明する。細胞や血液、循環器、呼吸器、消化器、泌尿器、内分泌系などの各システムについて、人体の健康維持に不可欠な基本的な構造と機能を学ぶ。特に、ホメオスタシス（恒常性）を保つための体液の調整、体温調節、尿生成、ホルモン作用、神経系の働きなどを理解し、臨床医学に応用するための基礎的知識を習得する。また、生殖や成長、老化の過程も含め、ヒトの一生にわたる身体的・生理的変化についても学修し、健康的な生活を送るための知見を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	デジタル・フェノタイプ ング心身機能観察基礎演習	○	<p>本科目では、デジタル技術を用いたフェノタイプング手法を活用し、心身機能を科学的に観察・評価する基礎的な知識とスキルを修得することを目的とする。ストレス反応や心理生理学的データを取り扱い、データ収集、解析、解釈を通じて心身の相関を観察する方法について学修する。また、ウェアラブルデバイスや最新のセンサー技術を用いたデータ収集を実践、体験し、データ駆動型の健康戦略立案に向けたデータ処理能力を養う。</p> <p>(1 鍵谷方子・5 矢島孔明・⑥ 小岩信義/全23回) (共同)</p>	共同
	生命科学概論	○	人間の生命科学を通じて、生物一般の法則がどこまで人間に適用できるかを探り、生物学的特徴を考察する。また、人間は生物学的存在だけでなく、精神的・社会的側面も併せ持つため、生命科学や人文科学を含む総合科学として捉えることで理解を深める。細胞構造や機能、遺伝子の役割、発生過程、性分化などを学び、生命倫理問題についても考察し、分子生物学や化石人類学の知見からヒトの生命を多角的に理解し、生命科学の基本を探求する。	
	栄養学		本科目では、日常的に摂取を行う食品や食生活を含めた栄養という生命活動と、心身の健康のつながりを学修していきます。現在明らかにされている栄養の仕組みが、どのように健康状態を左右しているのだろうか？栄養素がもたらす心身の関係性や問題点は、どのようなものがあるのだろうか？身近なテーマとして捉えながら、健康状態を引き上げるための視点について広い視野と正確な知恵を科学的な知見から持てるようになることを本科目の目的とする。	
	分子生物学		遺伝現象が系統立てて研究されるきっかけとなったメンデルの遺伝の法則とはどのようなものかを理解する。染色体、DNA、遺伝子の関係を理解し、遺伝子の正体はDNAであること、遺伝子にある情報とはたんぱく質の設計図で、遺伝子の情報からたんぱく質がどのように作られるのかを学ぶ。ゲノムプロジェクトとはどのようなものか、ポストゲノムとは何かについて理解する。遺伝子と病気の関わりや、ゲノム研究における技術にはどのようなものがあるかを学ぶ。生物としてのヒトの存在を分子レベルで理解し、そこから生物とは何か、ヒトとは何かを考え、ヒトの心身の健康の面から、これからの社会へのヒトとしてのあり方を追求する。	
	脳科学論		脳が「こころ」を生む臓器であるということは、「知識」として納得できても、なかなか実感しにくい。むしろ経験としては、心臓やその他の場所で、「こころ」が生じていると考える人も多いのではないだろうか。本授業では、神経細胞と支持細胞からなる物質的な脳が、どのように我々の意識や行動を規定しているのかを学び、「こころ」とは何か、「こころ」が生じるしくみについて考える。さらに脳科学の知見を、よりよい人生を送るためにどのように応用できるのかについて、受講生とともに探る。	
	健康科学論		健康科学は生物としての人間を心身両面から尊重し、社会活動の中で健康の意義、価値、歴史、社会哲学、倫理などの視点から人間のあり方を考える基礎的な分野として位置づけられる。健康とは何か、健康を構成する概念は何か、といった中心概念から出発し、社会や文化と健康とのかかわりを学び、現在の私たち、そして未来の人類がどのように生きていくのかを各自が考える糸口を得ることを目標とする。学修を通して、人々の健康について多角的に理解し、他者や環境とのかかわりのなかで心身ともに健やかに暮らすことができる社会の構築に向けて、洞察する力や意見を発信する力を養う。	
	ライフスタイルと健康科学		日々の生活習慣(ライフスタイル)の積み重ねから様々な生活習慣病に至ることを学び、健康的な生活習慣の重要性を理解する。代表的な生活習慣病として、肥満・肥満症、糖尿病、高血圧、脂質異常症などの原因・疾患に至る仕組みと症状、検査・診断、治療のポイントを学び、生活習慣の改善によって予防や改善が可能な疾患であることを理解する。学修を通じて身に着けた知識を自身や周囲の人々の健康維持に役立て、現代人が心身ともに健康で豊かに暮らせる方策を洞察する力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	公衆衛生学		公衆衛生学は、個人の健康だけでなく、地域社会や集団全体の健康の維持・増進を目的とし、環境や生活行動を社会的に整備することで人々の健康を守る社会防衛機能としての保健医療活動を基盤としている。本授業では、公衆衛生の理念と役割を理解したうえで、予防医学の基本、集団検診の仕組み、疫学的手法とその活用、保健統計（人口動態統計を含む）の読み解き方、環境保健や学校保健、健康教育の実際について幅広く学修する。さらに、地域保健や感染症対策、保健政策の構造についても概観し、現代の公衆衛生活動を支える科学的根拠と技術的手段を実践的に理解する力を養う。	
	臨床医学概論		正常な身体構造や生理機能の理解を基盤として、心身の健康がどのように損なわれ、病気へと至るのかを概観する。代表的な疾患（循環器疾患、代謝疾患、呼吸器疾患、神経疾患、精神疾患など）を取り上げ、疾患の成り立ちや進行の背景にある病理メカニズムと、現代西洋医学における診断・治療の基本的枠組みをわかりやすく学ぶ。特に、心身のつながりを理解し、社会のウェルビーイングに貢献する人材として必要な視点を重視し、医療専門職を前提としない立場からでも臨床医学への理解が深められるよう配慮する。さらに、健康行動や生活習慣が関与する疾患の理解を通じて、予防や健康回復を支える実践的知識を修得し、ヘルスプロモーションの視点から臨床医学を多角的に捉える力を養う。	
	高齢者健康科学論		高齢者が心身ともに健康な状態で、社会に参加し、自立した人生を終える上で、必要とされる高齢者の身体と心の特徴に関する科学的知識と考え方を学習し、心身共に健康で充実した高齢期を迎えるための留意点を理解して、心身ともに健康で豊かに暮らせる社会構築に向けた方策を洞察する力を養う。	
	女性健康科学論		女性のライフサイクルを通して起こる身体の変化の特徴を学び、女性が外部環境の変化や内部環境の変化に適応しつつ、心身健康に生きる大切さを考える。女性のライフサイクルを通じた心身健康にかかわる基礎的知識および学際的・総合的知識を身につけ、現代社会と今を生きる人間に深い関心を持ち、新しい展望と視座に立って、心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の構築に向けた洞察力を養う。	
	自律神経生理学		<p>生体が生きていくために最も基本的な循環、消化、排泄などの機能に関わる内臓の働きは、無意識のうちに常時調節されている。本科目では、内臓の働きの調整に関わる自律神経系の成り立ちと働き、自律神経系による生体の内部環境の恒常性維持の仕組みを学ぶ。自律神経による内臓の調整は感情やストレスの影響を受けて、ときには体調不良を招くこともある。内臓の機能を良好に維持して心身の健康を維持するために、日常生活でどのように注意すべきか、自ら考察し、現代社会に生きる人間が心身共に健康に暮らすことのできる方策を洞察できる力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(1 鍵谷方子/4回)</p> <p>自律神経系の構造と働き、内臓求心性神経と自律神経機能の調節中枢、内分泌・免疫機能・呼吸機能の自律神経による調節、について概説する。自律神経による内臓調節の仕組みの特徴を把握し、その働きが生体リズムや身体外部の刺激の影響を受けることを理解する。</p> <p>(⑦ 鈴木はる江/4回)</p> <p>心臓・血管の構造と+E105自律神経による調節、血圧調節の仕組み、消化器系の調節の仕組み、泌尿器系の調節の仕組み、体温調節の仕組み、について概説する。</p>	オムニバス方式
	免疫学		免疫システムと心身の健康との関係を理解することを目的とした科目。免疫系が身体の健康維持にどのように機能するか、またストレスや心理的要因が免疫反応に与える影響を学ぶ。基礎的な免疫学の知識に加え、心と体の相互作用に焦点を当て、ストレスや睡眠不足、運動などの生活習慣が免疫力にどのように影響するかを探る。学習を通じて自己免疫疾患やアレルギー反応のメカニズムを理解し、心身の健康を保つための具体的な方法論も学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	予防栄養学		病気を未然に防ぎ健康を維持・向上させるための栄養管理について学ぶ。栄養素を適切なバランスで摂取することで、生活習慣病や栄養不良による疾患リスクが軽減することを理解する。また、特定のライフステージや体質に応じた栄養管理について予防的な食事計画の策定方法について理解を深める。学修を通じて、栄養状態がこころ、からだ、環境・社会と密接に関わることを理解し、職場や地域、また個人でできる健康維持のための予防や対策を知ることを目的とする。	
文化・社会と人間	社会調査法－基礎	○	心身の健康や社会的ウェルビーイングの向上には、社会の現状を的確に把握し、データを活用することが不可欠である。本科目では、社会調査の目的と手法を学び、量的および質的調査の基本技術を習得する。また、日常的な調査やビッグデータの取得・整理・分析の基礎についても学び、調査結果を社会課題の解決やウェルビーイング向上に活かす基礎力を養う。	
	社会調査法－応用		本科目では、「社会調査法－基礎」で学んだ基礎的な社会調査の知識と技能をさらに発展させる。生活者や地域の問題やニーズを社会調査法を用いて把握し、分析する調査力を高めるとともに、問題解決に向けた柔軟な思考力とアイデア提案力を育む。一連のプロセスを演習形式で実践的に修得することを目指す。	
	社会調査実践 I		本科目では、量的調査による社会調査の基礎的な実践力を養うことを目的とし、共通テーマに基づいたグループによる調査プロジェクトに取り組む。受講者は、実在の社会現象を対象に、調査の企画、仮説の構成、調査票の作成、対象者の設定とサンプリング、倫理的配慮を含む実査計画の立案に至るまで、社会調査の初期段階を段階的に体験する。特に、信頼性・妥当性を意識した調査票の設計と、量的データ収集に関する基本技法（調査依頼手順、郵送・オンラインによる配布方法等）の理解と実践に重点を置く。後半では、模擬調査や予備的フィールド調査を通じて、実践的な調査感覚を養う。調査テーマは「地域における個人および社会のウェルビーイング」に関連する内容とし、本学科の教育目的に沿った共通の調査項目を設定して進行する。	
	社会調査実践 II		本科目は、「社会調査実践 I」に続く発展科目として位置づけられ、同科目で設計・準備した調査計画に基づき、実査、データ収集、整理、集計、分析、報告書作成に至る後半の調査過程を実践的に学ぶ。受講者は、収集した量的データに対して、データ・クリーニングやコーディングなどの前処理を行い、統計解析ソフトを用いて、他の関連授業（「ウェルビーイングのための統計演習 I・II」など）で修得した統計手法を実際のデータに適用する。さらに、仮説検証に基づいたデータの解釈、図表の作成、結果の文章化および視覚的表現の技術についても、実践的に習得する。最終的には、グループごとに調査報告書を完成させ、口頭発表を通じて成果を他者に説明する力を育む。全体を通して、社会調査の一連のプロセスを体系的かつ実践的に理解し、量的調査を自ら遂行できる運用力を総合的に修得することを目指す。	
	人間環境論	○	高度に発達した文明社会に生まれ育つ現代の人間は豊かな文明を享受できる一方で、急速に変化する自然や社会環境に適応することを迫られている。本科目では人間が長い歴史の中で自然環境や社会環境にどのように働きかけ、どのように適応してきたかについて学ぶ。さらに科学や産業が発達し、人間が活動を広げる中で、地球が大規模に破壊されつつあり、人間がそれに新たに対応している様子を学ぶ。次世代が心身ともに充実して自然と共に生を楽しむ地球環境を作るために私達は何かができるかを考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ウェルビーイングと社会システム	○	<p>ウェルビーイングを実現するためには、個人の幸福だけでなく、社会システムの理解が欠かせない。本科目では、経済、教育、福祉、環境など、主要な社会システムの仕組みを学ぶとともに、それらがどのように相互に影響し合い、個人やコミュニティのウェルビーイングに寄与するかを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 中山和久/10回) ウェルビーイングと社会システムの関係や、それらを取り巻く全体像について様々な視点で講じる。さらに情報技術とウェルビーイングについても理解を深める。</p> <p>(② 中山和久・18 飯塚愛/5回) (共同) ウェルビーイングに向けた様々な実践として何が起きているのか、Technology、Connection、Society、Japanの4つのキーワードを軸として、テクノロジーから「自律」するために必要なことについて講じる。 情報技術とウェルビーイングについて、社会制度とウェルビーイングについて講じる。15回目の授業では、まとめとして、ウェルビーイングと社会システムの特徴をふまえた上で、「わたしたち」のウェルビーイングへの実践を、よりよく生きるための知恵に結び付けるため、総合討論を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	持続可能型社会論	○	<p>人間が心身ともに健康で豊かな生活を送るためには、サステナブル(持続可能な)社会の構築と地域づくりが不可欠である。本科目では、SDGs(持続可能な開発目標)を軸に、近年注目されるサステナブル・ウェルビーイング・ゴールズ(SWGs)の概念も踏まえ、社会の持続可能な発展がウェルビーイングの向上につながる理論や実践方法を学ぶ。環境、経済、社会の3つの側面を統合的に捉え、特に災害や社会的リスクが持続可能性に与える影響についても考察しながら、テクノロジーを活用した強靱(レジリエント)な社会の実現に向けた課題解決のアプローチを探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(① 小柴満美子/4回) SDGsとSWGsの概念と持続可能な社会に向けた社会動向、持続可能な社会の発展を阻害する現代の諸問題について概説する。また、自然災害や社会的リスクに対する地域コミュニティの強化や危機対応、災害リテラシーを含めた持続可能な地域防災の概念形成と、テクノロジーを活かした災害対応の可能性、共助の仕組みや、心理的な動揺を緩和する社会的支援のあり方など、社会全体のウェルビーイング向上に資する持続可能なコミュニティ形成について考究する。</p> <p>(③ 増田和宏/4回) SDGsを実現するSociety 5.0について解説し、その先にあるSWGsを考える。これに基づき、消費期限切れによる廃棄や食べ残しなどの食料品特有の問題について、工業製品を生産、使用後の循環について、持続可能な社会に向けた改善策を概説する。 また、炭素資源を原料とした製品生産から脱炭素化を目指すために、持続可能な社会に向けた改善策を概説する。8回目には、まとめとして心身健康科学の理解から持続可能な社会に向けた改善行動のあり方を考える。</p>	オムニバス方式
	社会福祉論		<p>現代の社会保障と社会福祉の概念と制度について公衆衛生看護の視点に立って学ぶ。医療職にとってクライアントの利用できる社会資源について学ぶことは必須であり、生活保護や年金・保険制度はだれにとっても基本的な事項である。これらを具体的に理解し、さらに地域の福祉や障害者の福祉にも触れて学修することにより、社会制度に対する一層の視野の拡大を図ることができる。</p>	
	比較文化論	○	<p>文化を比較することは、自らの文化をよりよく理解するきっかけとなる。本講では、比較文化に関する理論的側面や実際の場面を考察することから始めて、西欧文化とはかなり異質な側面を持つ日本文化に関する理解を深めることが目標である。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	文明の成り立ち		本科目では、心身健康科学における「文化・社会」の視点から、人間の健康や生き方を支える文明や価値観の成り立ちを考察する。特に社会学的な視座に立脚し、文明や宗教、科学技術の発展が、人間の心と身体、社会構造、倫理観にどのような影響を与えてきたのかを学際的に捉える。古代から現代に至る文明の歩みを通して、「人間とは何か」「共に生きるとはどういうことか」を問い直し、現代社会の課題に回答できる視座と倫理観を育むことを目指す。	
	社会学概論		心身健康科学は、人間の「こころ」「からだ」「文化・社会」の相互作用を総合的に理解し、個人と社会のウェルビーイングを実現することを目指す学際的な学問である。その中で社会学は、個人の心身の健康がどのような社会構造・文化的背景・歴史的文脈の中で形づくられているかを捉えるための基盤的な視座を提供する。 本科目では、「社会」を構成する制度や価値観、人と人との関係性、生活様式の変化といったテーマを扱いながら、社会学の基本的な考え方と理論の歴史的展開を学ぶ。とくに「近代の幕開け」「近代から現代へ」「未来へ」という三段階の時間軸に沿って、社会学に多大な影響を与えた思想家とその理論を取り上げることで、社会の変化と個人の生き方・健康・福祉との関係を探究する。 常識や既存概念にとらわれず、社会を柔軟に捉え直す思考を通して、多面的な視点を育み、「よりよく生きる」社会の在り方を構想・実践するための思考基盤を築くことを目的とする。	
	保健学		健康の維持・増進や疾病予防の基本的な考え方を学ぶことを目標とする。健康指標やライフスタイル、保健統計を基に疾病予防を理解し、各ライフステージに応じた制度を学ぶ。学習内容には、疾病予防の段階、環境汚染と健康、人口動態統計、疫学、個人情報保護、生活習慣の現状と対策、悪性新生物や感染症の疫学と予防対策、高齢者介護の概要や精神保健対策が含まれる。これにより、人間集団における健康問題を理解し、実生活における健康の維持や増進について考える力を身に付け、健康問題の把握と改善に向けた洞察力と意見を発信する力を養う。	
	人間文化論		医療や健康に関する問題をはじめとする現代的諸問題を突き詰めていくと、結局のところ、「人間とは何か」という問題に行き着く。本講では、古今東西の思想や宗教の知恵を動員し、この問いを考える際に必要な基本的な視点を提供し、解答を探索するいくつかの道筋を示すことを目標とする。古代ギリシャ、キリスト教、ルネサンス、近代哲学、現代哲学、仏教、儒教、日本古来の人間観を学ぶことを通じて、自分自身の人間観を相対化し、多様な価値観を持つ他者と共生する力を養う。	
	地球・生命史		宇宙の誕生から現代に至るまでの137億年の歴史を振り返り、地球の誕生、生命の進化、人類の誕生、文明の発展を総合的に学ぶことを目的とする。生命の連続性を理解することで、地球上におけるヒトと他の生命とのつながりを考察し、人間の存在や地球に対する責任について考える。また、最新の知見を基に、学際的な視点から地球・生命・文化の歴史を学び、ヒトがどこから来てどこに向かうのかという問いに対する理解を深め、創造力・洞察力を持って現代の科学的・社会的要請に対して応えようとする意欲と能力の構築に寄与する。	
	高齢者福祉論		高齢社会をより良く営むための知恵を身につけ、社会の自助、共助、公助の概念と実践方法を学び、高齢者への理解を深め、自らの人生設計や高齢社会に寄与する知識を身につける。学修を通じて加齢に伴う身体的、心理的、社会的変化を理解し、高齢者の自立支援や要支援者へのヘルスプロモーション、介護制度の活用法、ウェル・ビーイングやQOL向上に関する知見から幸福な老後を考察する。高齢者を支援するために必要な方法を学ぶことで、高齢社会を担い自ら行動する力、地域の人々と協働する力を養う。	
	食べものの学		健康について、食事管理、人の行動、ライフステージ、疾病予防、社会と健康の5つの視点から学び、健康を多面的に捉え、世に溢れる情報に振り回されない判断力や考え方を身につけ、生涯に渡って健康で豊かな生活を送ることができる力を養う。食べることの意義やバランスの良い食事の重要性を学び、食行動に影響を与える要因や、各ライフステージにおける栄養の必要性を理解する。さらに、生活習慣病予防や環境と健康の関係を学ぶことで、正しい健康情報を基に自らの健康を管理し、生涯にわたって豊かな生活を送る力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	いのちの文化人類学		<p>本科目は、人間総合科学における文化・社会の側面から「いのち」について学ぶ重要な科目である。「いのち」について多様な考え方が存在していること、私たちが生きているこの日本にも、かつては、現在とは異なる</p> <p>「いのち」観があったことを理解し、そのような多様性や変化が、どのような要因によって形成されたかを学ぶ。さらに、「いのち」を一般的な意味よりはるかに広くとらえることによって、生きること、死ぬこと、個人と個人が所属する社会が存在することの意味がこれまでとは違って見えたりより深く理解できる方法としての文化人類学の考え方を学ぶ。</p>	
未来と人間	ウェルビーイング論	○	<p>ウェルビーイングは、持続可能な開発目標 (SDGs) 達成後の社会における新たなビジョンの中核をなす概念として重要視されてきている。本科目では、個人や社会のウェルビーイングを多面的に理解し、その向上に寄与する要因や方法を学ぶ。近年の科学的視点に基づき、ウェルビーイングの概念整理も行う。心理的、身体的、社会的な視点から、ウェルビーイングの概念を理解し、教育、経済、環境、公共政策など社会全体に与える影響を考究する。AIや先端技術を活用して心身の能力を高め、持続可能なケアと豊かな社会の実現を目指すムーンショット目標の視点も取り入れる。講義やディスカッションを通じ、個人とコミュニティの課題に向き合い、解決策や改善の方向性を、理論と事例に基づいて柔軟に考える力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(① 小柴満美子/4回)</p> <p>ウェルビーイングとは何か、持続可能な開発目標 (SDGs) を達成するための新たなビジョンとして、「個人の」ウェルビーイング、および「社会の」ウェルビーイングという異なる角度からウェルビーイングを考察する。</p> <p>心理的・身体的・社会的それぞれの視点からウェルビーイングを理解し、その理解に基づいてウェルビーイングに関する概念を整理する。</p> <p>ウェルビーイングを向上させるには何が必要か、ウェルビーイングの要因は何か、ウェルビーイングを向上させる方法について考察する。</p> <p>(③ 増田和宏/3回)</p> <p>ウェルビーイングは様々な分野に影響するが、中でも社会、教育、経済、環境、公共政策に着目しながら、その影響について講じる。</p> <p>AIや先端技術を活用したウェルビーイングについて、心身能力の向上、持続可能なケア、豊かな社会、ムーンショット目標に着目しながら講じる。さらに、また未来社会の共存AIのウェルビーイング活用について説明する。ウェルビーイングという観点から個人とコミュニティの課題に向き合い、解決策や改善の方向性を、理論と事例に基づいて考察する。</p> <p>(① 小柴満美子・③ 増田和宏/1回) (共同)</p> <p>ウェルビーイングの特徴を整理した上で、よりよく生きるための知恵として活用する方法についてディスカッションする。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ポジティブコンピューティングⅠ	○	<p>デジタル技術が生活のあらゆる場面に浸透する近年、人々のウェルビーイングを実現するテクノロジーの設計、すなわちポジティブ・コンピューティングのアプローチが求められている。本科目では、ウェルビーイングの捉え方について深く理解するとともに、テクノロジーが個人、および社会のウェルビーイング（幸福・健康）をどのように向上させるかを学ぶ。AIやデジタルツールを含む情報技術の応用などを通じて、ウェルビーイングを支援するテクノロジーデザインのアプローチの基礎を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 小柴満美子・35 西田吉克/7回) ポジティブ・コンピューティングの概念について学ぶ。Well-beingとはなにかについて理解する。本質的かつ多様な課題の相互理解。こころ・からだ・環境や社会のバランス均衡、学際的知識・概念の間を結ぶためにコンピューティングが担うべきことを考える。</p> <p>(③ 増田和宏/7回) AIの歴史や進化、AIの一般システムと違う点などのAI基礎について学習して、現代社会の活用例を学習する。AI(自律覚醒AI)の環境や特性、知識の動き方について説明して、社会生活での可能性について学習する。</p> <p>(① 小柴満美子・③ 増田和宏・35 西田吉克/1回) (共同) まとめとして、テクノロジーが個人、および社会のウェルビーイング（幸福・健康）をどのように向上させるかについて、ディスカッションする。</p>	オムニバス方式
	ポジティブコンピューティングⅡ	○	<p>「ポジティブコンピューティングⅠ」で学んだ基礎知識をさらに発展させ、実践的な応用に焦点を当てる。AIやデジタルツールを含む情報技術を実際に活用し、個人や集団のウェルビーイングをデザインするための視点を養う。さらに、ケーススタディなどを通じて、具体的にウェルビーイングを促進・創出するテクノロジーのデザインとその方法論を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(① 小柴満美子・35 西田吉克/4回) VR/AR/MRなどXRの仮想と現実の空間融合の新メディアツールと神経機能のポジティブ心理を誘起する開拓方向、AI/ITを使った動機を引き出すゲーミフィケーションなどの方法論を探る。社会応用に関わる留意点や課題についても考える。</p> <p>(③ 増田和宏/4回) 自律覚醒AIの活用を具体的な複数の活用事例をもとに解説する。</p>	オムニバス方式
	生命倫理学		<p>現在、著しい生命科学の進歩に伴って開発された技術が医学薬学医療に応用される一方、それら科学技術と医療技術の進歩は私たち人間の生存に対してさまざまな問題を提起している。これらの問題に対して、生命倫理（バイオエシックス）の果たす役割は大きい。その根本にある、生命科学の時代の基本的な考え方は、人間の尊厳や生命の尊厳と、人間の生存を守ることにある。本講義では、生命科学技術の発展に伴う様々な生命倫理上の問題を理解し、説明できるようになることを目的とし、倫理上の問題を自ら発見し、考えを整理するスキルを身に着ける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	ウェルビーイング実践Ⅰ		<p>本科目では、こころとからだの健康とウェルビーイング向上を目指し、さまざまな実践法を体験的に学ぶ。具体的には、マインドfulness瞑想やピラティスなどの静的・動的な身体的アプローチによって行われている、ウェルビーイング向上を目指すさまざまな実践法を体験的に学ぶ。体験を通して、個人と社会におけるウェルビーイングの向上に貢献する力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(27 鈴木啓子/4回) ウェルビーイング向上を目指す実践法としてのピラティスを体験的に学ぶ。</p> <p>(34 山口伊久子/4回) ウェルビーイング向上を目指す実践法としてのマインドfulness瞑想を体験的に学ぶ。</p>	オムニバス方式
	ウェルビーイング実践Ⅱ		<p>本科目では、こころとからだの健康支援について、ライフステージや対象の個別性に応じた支援への理解を実践的に学ぶ。具体的には、ライフステージのうち、特に健康への関心や取り組みの重要性が高まる中高年を主な対象とした心身健康科学の多角的視点を活かした支援の在り方について学ぶ。実践的な学びを通して、個人の性別や年齢、体力、意識、環境などの多様な背景を考慮したウェルビーイング向上に寄与する視点と実践力を養う。実践的な学びを通じて、多様な背景を持つ個人やコミュニティに適した支援方法を探求し、健康増進に寄与する能力を身につけます。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合演習	人間総合科学の探究 I	○	<p>本科目は、個人や社会のウェルビーイング向上に向けた研究テーマ・プロジェクトを元に、探究を遂行する。3年次に学んだ「こことからだのウェルビーイングプロジェクト」で得られた成果と評価によるフィードバックを踏まえ、「こことからだのウェルビーイング探究 I～VI」で各学生が検討を重ねてきたスキルや知識、探究力をもとに『人間総合科学の探究』を進める。成果物としては、論文・レポート形式の成果報告書として、または、ハードあるいはソフトなものづくり制作物として完成を目指す。本科目の学修により、理論と実践を結びつけ、人間を科学的、学際的に理解し、心身ともに健康で幸福に暮らせる社会構築を科学技術を活用して支援するために、自分の価値や強みを理解し、これらを活かして主体的に課題解決に取り組む意欲と能力を養う。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・② 中山和久・5 矢島孔明・③ 増田和宏・④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全30回) (共同)</p> <p>(1 鍵谷方子/8回) 生理学や自律神経生理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を作成する。</p> <p>(2 川村春美/8回) データサイエンスを活用したアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を作成する。</p> <p>(① 小柴満美子/8回) 生命工学や精神生物学の視点、テクノロジーを活用したアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を作成する。</p> <p>(② 中山和久/8回) 文化人類学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を作成する。</p> <p>(5 矢島孔明/8回) 生理学や生命科学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を作成する。</p> <p>(③ 増田和宏/8回) データサイエンスの視点やAIを活用したアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を作成する。</p> <p>(④ 鈴木康弘/8回) 臨床心理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を作成する。</p> <p>(⑤ 矢澤順根/8回) 心理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を作成する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	人間総合科学の探究Ⅱ	○	<p>本科目は、「人間総合科学の探究Ⅰ」で実施した探究を元に、個人や社会のウェルビーイング向上に向けた研究テーマ・プロジェクトをさらに掘り下げ、成果物を完成させる。探究発表会を行い、グローバルな舞台で積極的に挑戦する力を身につけて、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。本科目の学修により、実践的な経験を通して探究の深化を図り、成果を形にする（論文・レポート形式の成果報告書、あるいは、ハードまたはソフトなものづくり制作物として）。発表会ではスキルや知識の総合力を高め、将来の個人と社会のウェルビーイングに貢献できるリーダーとしての自己実現に向けた基盤を築く。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・② 中山和久・5 矢島孔明・③ 増田和宏・④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全30回) (共同)</p> <p>(1 鍵谷方子/8回) 生理学や自律神経生理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を完成させ、発表する。</p> <p>(2 川村春美/8回) データサイエンスを活用したアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を完成させ、発表する。</p> <p>(① 小柴満美子/8回) 生命工学や精神生物学の視点、テクノロジーを活用したアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を完成させ、発表する。</p> <p>(② 中山和久/8回) 文化人類学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を完成させ、発表する。</p> <p>(5 矢島孔明/8回) 生理学や生命科学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を完成させ、発表する。</p> <p>(③ 増田和宏/8回) データサイエンスの視点やAIを活用したアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を完成させ、発表する。</p> <p>(④ 鈴木康弘/8回) 臨床心理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を完成させ、発表する。</p> <p>(⑤ 矢澤順根/8回) 心理学の視点からのアプローチを軸に、心身健康科学とAI・データサイエンスを融合させ、個人または社会のウェルビーイングに資する探究を行い成果物を完成させ、発表する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
キャリア形成科目	職業・キャリア形成 I		<p>今後将来持続した社会での活動を行うために、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解していくキャリアの考え方は重要である。企業で活躍されている職業観やキャリアを見聞しながら、個別の職業に関する情報収集や意見交換を通じて、今後自らが進むべきキャリア・人材像について考える。本科目の学修により、将来の職業に対する自己理解を深め、自身のスキルや興味を結びつけながら持続可能なキャリアの構築を目指す力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(① 小柴満美子/1回) 就職活動にとって重要なインターンシップについて種類、申込方法、活用方法等を説明する。</p> <p>(⑨ 時光一郎/4回) 仕事とは何かを考える。 将来のキャリア形成のために大学で如何に学ぶかについて教員のアドバイスを基に、今後の大学での学びについて教室全体でディスカッションを行う。 就職活動に必要なこと、エントリーシート、就職活動の実際について学ぶ。</p> <p>(① 小柴満美子・⑨ 時光一郎/3回) (共同) 自らの目標を明確に持ちながらポテンシャル向上のために、大学で如何に学ぶかについて考える。 現代社会に存在する様々な職業について知る。 あらためて働くことの意義を考え、就きたい職業のイメージを明確にするために教員より体験を踏まえ説明する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	コミュニケーション演習		<p>大学での学び方を身につけるため、情報の収集と発信に関わる諸技術およびチームワークを育てるための意志疎通の重要性を認識して、大学4年間を通じての学修に役立てる。コミュニケーションの背後にある対人理解を学び、科学的議論の場面に適した対話のスキルを学修する。同じ目標を有する同級生や教職員その他指導に関わる全ての方々とはスムーズなコミュニケーション力を養う。本科目の学修により、自らのアイデアや情報を効果的に表現し、他者と協力して問題に取り組む力を身につける。</p> <p>(1 鍵谷方子・2 川村春美・① 小柴満美子・② 中山和久・5 矢島孔明・③ 増田和宏・④ 鈴木康弘・⑤ 矢澤順根/全8回) (共同)</p>	共同
	職業・キャリア形成 II		<p>今後将来持続した社会での活動を行うために、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解していくキャリアの考え方は重要である。企業で活躍されている職業観やキャリアを見聞しながら、個別の職業に関する情報収集や意見交換を通じて、今後自らが進むべきキャリア・人材像について考える。本科目の学修により、将来の職業に対する自己理解を深め、自身のスキルや興味を結びつけながら持続可能なキャリアの構築を目指す力を養う。</p> <p>(オムニバス・共同方式/全8回)</p> <p>(① 小柴満美子/2回) 様々な就労形態と就活の進め方、インターンシップとは何か、参加のメリットについて学ぶ。</p> <p>(⑨ 時光一郎/3回) 様々な就労形態と就活の進め方を学ぶ。業界・企業・職種について研究方法を学ぶ。自分自身を振り返り、自己PRの書き方について説明する。発表を通して、全体でディスカッションを行う。</p> <p>(① 小柴満美子・⑨ 時光一郎/3回) (共同) 就活のための基本的な知識と就活の進め方について学ぶ。 「キャリア形成」の必要性について学ぶ。自己分析の仕方について学ぶ。エントリーシートとは何か、書き方について説明する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(人間科学部心身健康科学科 (通学課程))				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
共通科目	国際研修		日本と海外との制度や施設・設備の違いを知ることにより、自身の世界観を広げ、日本での学びを客観視できることを目的とする。 原則として、毎年実施されるベトナム短期海外研修を対象とする。ベトナムにて病院等の施設見学に加え、本学の事業提携校である「東京健康科学大学ベトナム」での合同授業等を通じて学生との交流を図る。他の海外研修についても、本科目の行動目標（SBOs）の達成が可能な内容であれば本科目の対象とする（その際は「国際研修計画書」を提出し、事前に担当教員の承認を得ること）。	
	ボランティア活動		ボランティア活動を通じて他者への関心や共感を深め、それぞれが目指す専門職に必要なコミュニケーション能力と利他精神を醸成することを目的とする。 大学が示す単位要件に基づいて、学生は自身の選択したボランティア活動を申告する。ボランティア活動の領域や内容、活動地域については制限しないが、活動前に「ボランティア活動計画書」を提出し、単位要件に適合する内容と時間数であることの承認を担当教員から得る。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の承認を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の承認を受けようとする場合又は大学等の廃止の承認を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人早稲田医療学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
人間総合科学大学				人間総合科学大学				
人間科学部				人間科学部				
健康栄養学科	40	—	160	健康栄養学科	40	—	160	
ヘルスフードサイエンス学科	15	—	60	ヘルスフードサイエンス学科	15	—	60	
				心身健康科学科(通学課程)	40	—	160	学科の設置 (認可申請)
保健医療学部				保健医療学部				
看護学科	90	—	360	看護学科	60	—	240	定員変更(Δ30)
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	50	—	200	理学療法学専攻	40	—	160	定員変更(Δ10)
義肢装具学専攻	30	—	120	義肢装具学専攻	30	—	120	
計	225	—	900	計	225	—	900	
人間総合科学大学大学院				人間総合科学大学大学院				
人間総合科学研究科				人間総合科学研究科				
健康栄養科学専攻(M)	5	—	10	健康栄養科学専攻(M)	5	—	10	
計	5	—	10	計	5	—	10	
人間総合科学大学(通信教育課程)				人間総合科学大学(通信教育課程)				
人間科学部				人間科学部				
心身健康科学科(通信教育課程)	250	—	1000	心身健康科学科(通信教育課程)	250	—	1000	
人間総合科学大学大学院(通信教育課程)				人間総合科学大学大学院(通信教育課程)				
人間総合科学研究科				人間総合科学研究科				
心身健康科学専攻(M)	30	—	60	心身健康科学専攻(M)	30	—	60	
心身健康科学専攻(D)	9	—	27	心身健康科学専攻(D)	9	—	27	
計	39	—	87	計	39	—	87	
早稲田医療技術専門学校				早稲田医療技術専門学校				
保健学科				保健学科				
保健学科	40	—	40	保健学科	40	—	40	
計	40	—	40	計	40	—	40	